

(令和2年度在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野)

「令和2年度訪問看護講師人材養成研修会」受講者

研修会受講後活動に関する調査

～看護師～

【結果】

2021年3月26日

一般社団法人全国訪問看護事業協会

## 調査概要

### 目的

「令和 2 年度訪問看護講師人材養成研修会」を修了した受講者がどのような活動をしているかを把握するために調査を行った。

### 調査対象

令和 2 年度訪問看護講師人材養成研修会の受講者（訪問看護師）158 名

### 調査方法

調査票を用いたメール（メール配布、メール回収）による自記式調査

### 調査時期

令和 3 年 2 月 8 日から 2 月 22 日まで

### 回収状況

回答者 139 名 / 受講者数 159 名（回収率 87.4%）

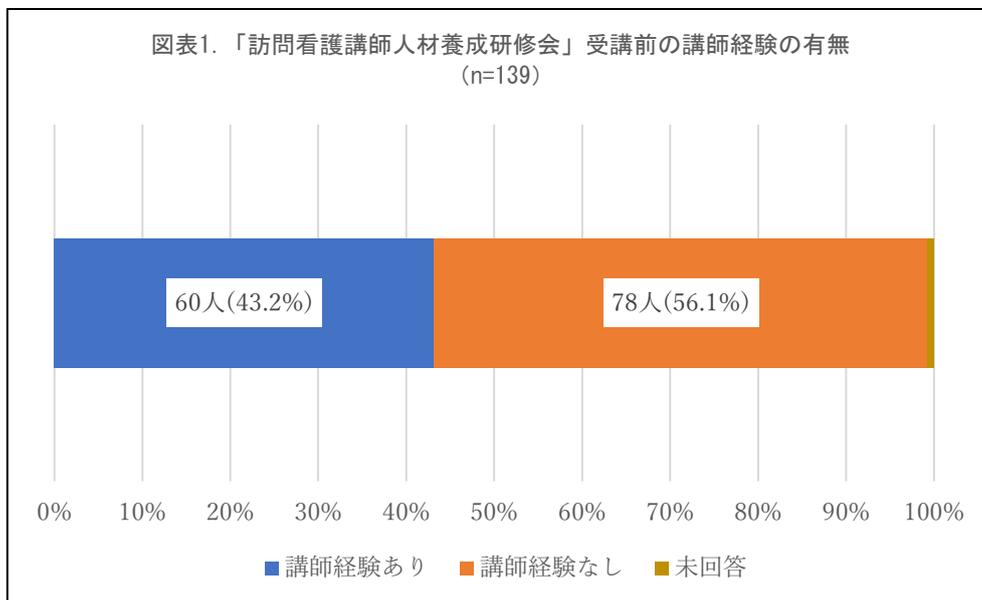
[1 名退職者がおり、アンケート送付ができていない。実質アンケート送付は 158 名]

## I. 基本情報について

### 1. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講前の講師経験の有無

「訪問看護講師人材養成研修会」の受講前の講師の経験の有無について

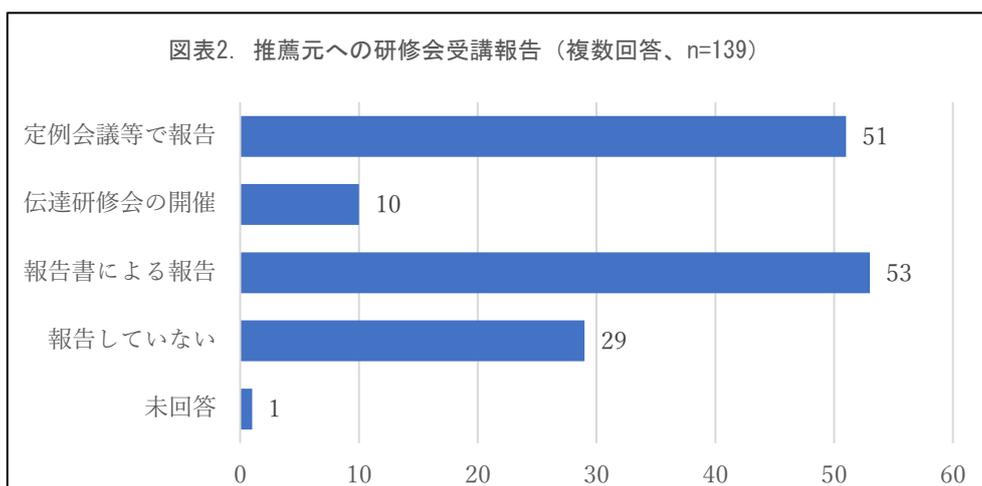
「経験あり」としたものは60人(43.2%)、「経験なし」が78人(56.1%)であった。



### 2. 推薦元への研修会受講報告

推薦元（都道府県、訪問看護ステーション連絡協議会、看護協会等）への研修会受講報告の方法について

「報告書による報告」が最も多く53人(38.1%)、次いで「定例会議等で報告」が51人(36.7%)、「伝達研修会の開催」が10人(7.2%)であった。「報告していない」は29人(20.9%)だった。



報告していない理由としては

「コロナ禍で定例会議が開催されていない為」

「グループの代表が報告している」

「電話・口頭での報告のみ」

「今後する予定」

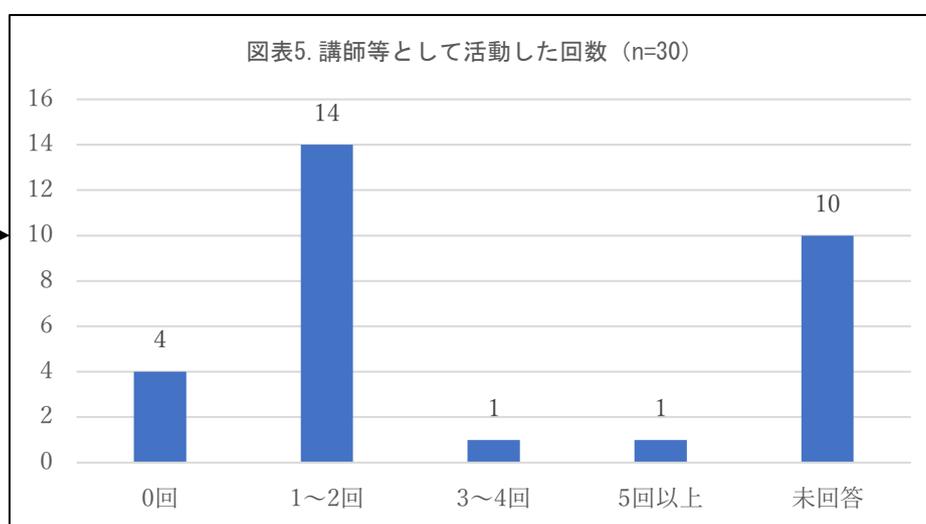
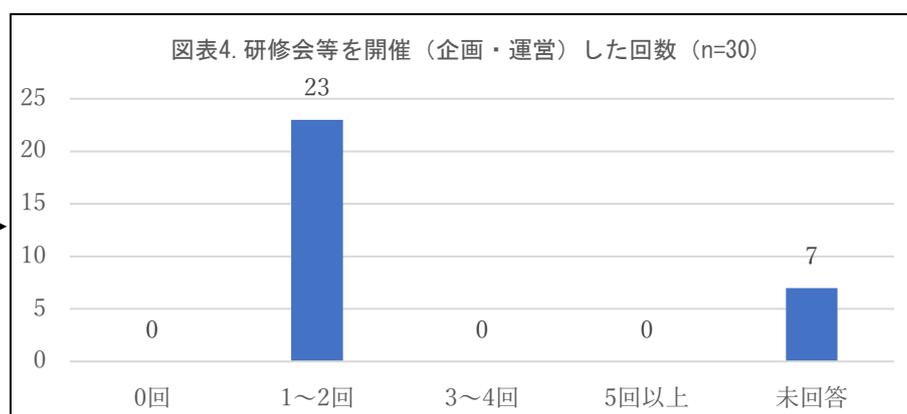
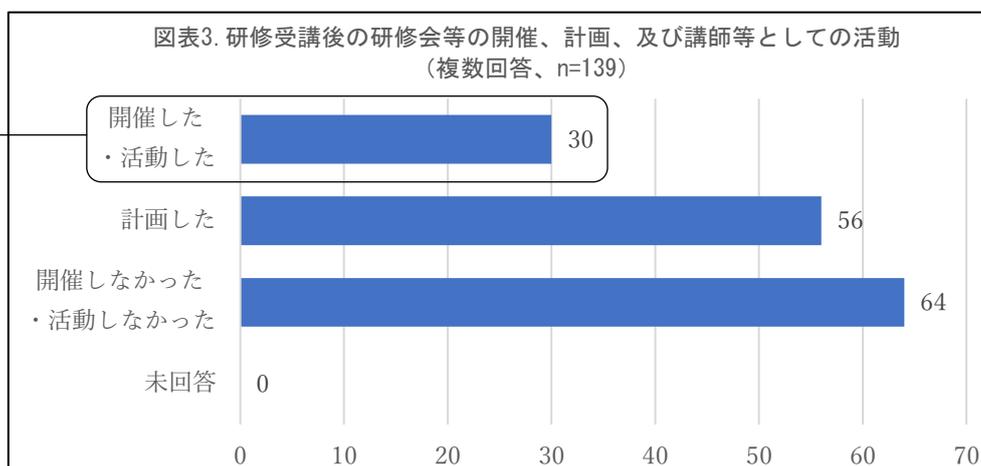
「受講報告をするという認識がなかったため」

## II. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講後の地域での活躍について

### 1. 訪問看護人材の確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催について

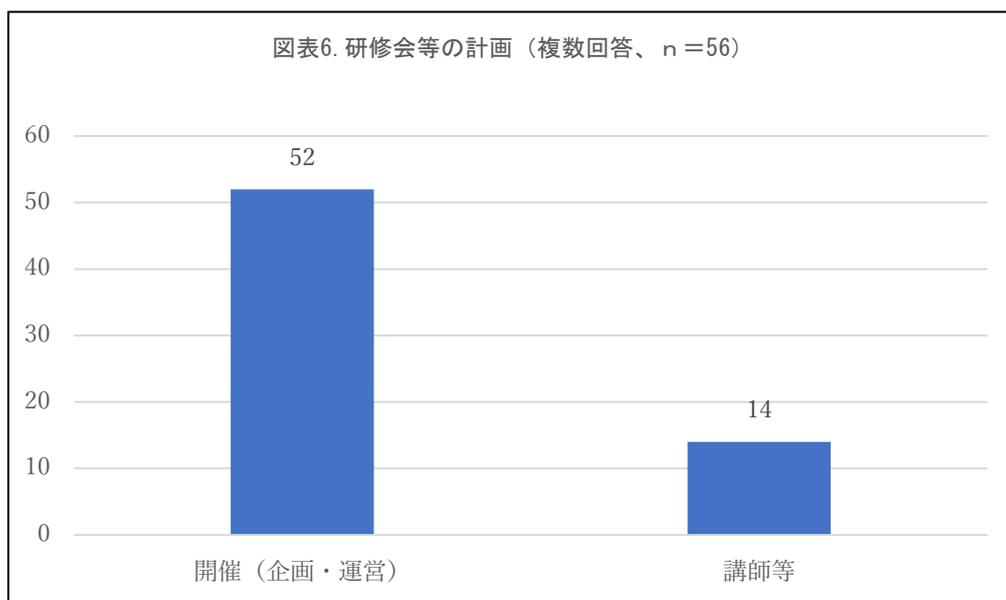
#### 1) 研修受講後の研修会等の開催、計画、及び講師等としての活動

研修受講後、訪問看護人材確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等について「開催した・活動した」が30人(21.6%)、「計画した」が56人(40.3%)であった。一方「開催しなかった・活動しなかった」と回答したものは64人(46.0%)であった。



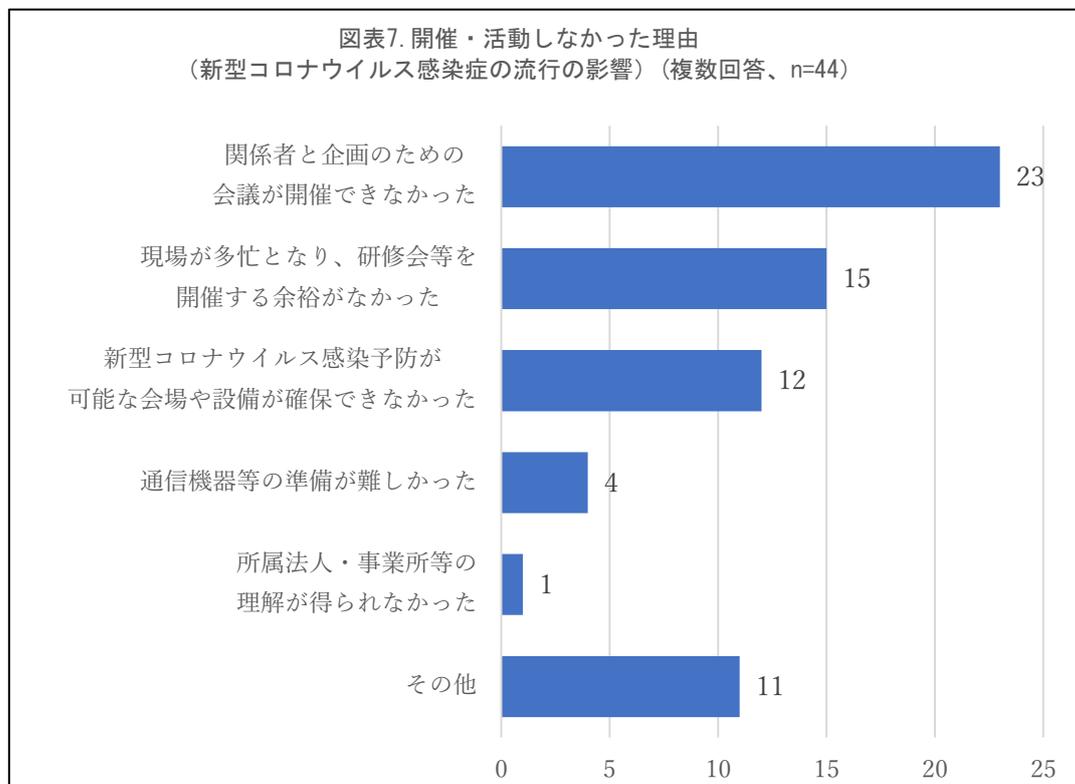
## 2) 研修会を計画したと回答したものの内訳

「計画した」と回答したもので「開催（企画・運営）を計画した」と回答したものが52人(92.9%)であり、「講師等としての活動を計画した」が14人(25.0%)であった。



### 3) 開催・活動しなかった理由（新型コロナウイルス感染症の流行の影響）

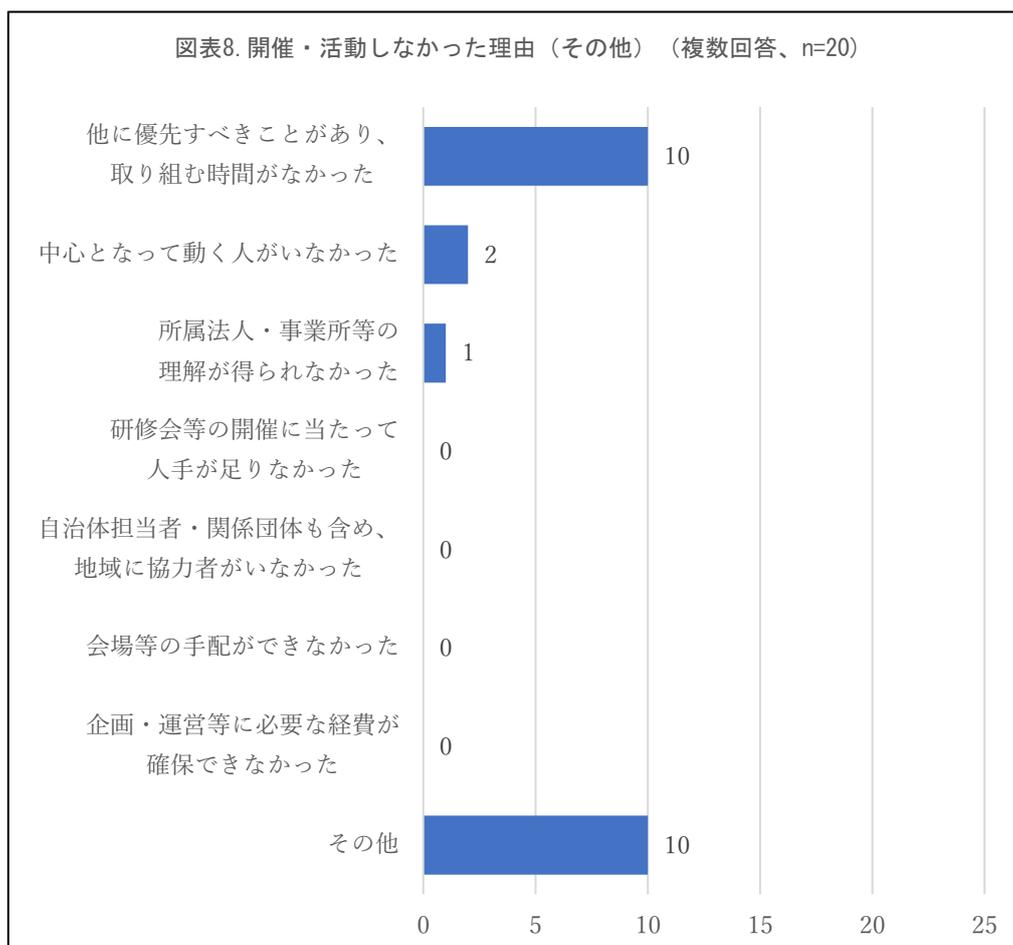
新型コロナウイルス感染症の流行による影響の理由で、最も多いのが「関係者と企画のための会議が開催できなかった」が23人(35.9%)、次いで「現場が多忙となり、研修会等を開催する余裕がなかった」が15人(23.4%)、「新型コロナウイルス感染予防が可能な会場や設備が確保できなかった」が12人(18.8%)、「通信機器等の準備が難しかった」が4人(6.3%)、「所属法人・事業所等の理解が得られなかった」が1人(1.6%)の順であった。



「その他」は11人(17.2%)で、以下の理由が挙げられた。(一部抜粋)

- ・会議は開催されたが業務調整ができず参加できなかった
- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえた上で、何度も理事会で話し合われたが、最終的には今年度は無理だと判断された
- ・感染拡大予防の為、あえて開催をしなかった
- ・コロナの時期で喫緊の対策対応に追われた
- ・コロナで集まることができなくなり中止となった

新型コロナウイルス感染症の流行による影響以外の理由で、最も多いのが「他に優先すべきことがあり、取り組む時間がなかった」が10人(15.6%)、「中心となって動く人がいなかった」2人(3.1%)「所属法人・事業所等の理解が得られなかった」が1人(1.6%)であった。

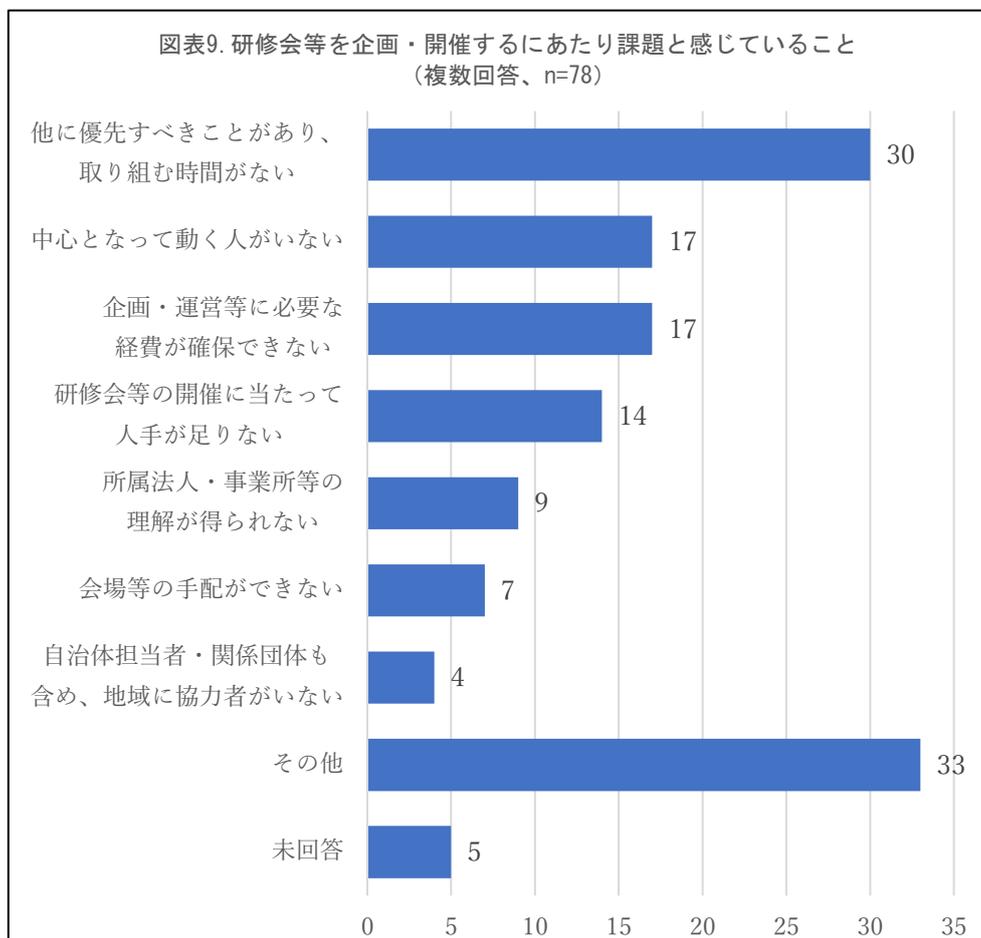


「その他」は10人(15.6%)の回答があり、その内容は「次年度に計画、活動する予定」、「自事業所での業務多忙」、「連絡協議会の活動の一環で受講したもので主催や活動の予定はない」等であった。

#### 4) 研修会等を企画・開催するにあたり課題と感じていること

継続的に地域で研修会等を企画・開催していくうえで、課題と感じていることについて

「他に優先すべきことがあり、取り組む時間がない」30人(38.5%)が最も多く、次いで「中心となって動く人がいない」、「企画・運営等に必要な経費が確保できない」がそれぞれ17人(21.8%)、「研修会等の開催に当たって人手が足りない」14人(17.9%)、「所属法人・事業所等の理解が得られない」9人(11.5%)、「会場等の手配ができない」7人(9.0%)、「自治体担当者・関係団体も含め、地域に協力者がいない」4人(5.1%)の順であった。



「その他」の回答は33人(42.3%)で、以下の内容が挙げられていた。(一部抜粋)

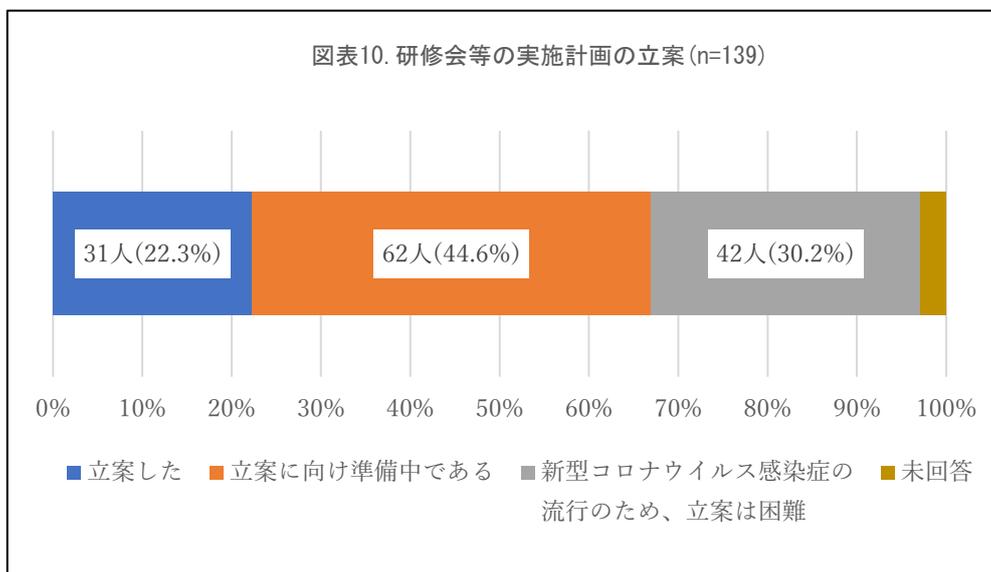
- ・開催するにはコロナ感染対策を要するため、会場確保・開催方法(オンライン研修)・講師依頼等が難しい
- ・ZOOM研修は音声を通じない等トラブルが多く、環境が整っていない事業所もあり、公平な研修開催に困難を感じる。
- ・オンライン研修を企画するに当たり、セキュリティの問題などで、所属法人との調整が大変だった。
- ・オンライン研修の場合、ホストができるか不安。運営にオンラインに慣れている方のサポートがあると助かる。
- ・訪問看護ステーション協議会からの協力
- ・自治体・行政が多忙でなかなか実企画に結びつかない

## 5) 研修会等の実施計画（講師として活動される場合も含む）

### (1) 研修会等の実施計画の立案

今後の研修会等について、具体的に実施計画を立案しているかについて

「立案した」と回答したものは31人(22.3%)、「立案に向け準備中である」が62人(44.6%)、「新型コロナウイルス感染症の流行のため、立案は困難」が42人(30.2%)であった。



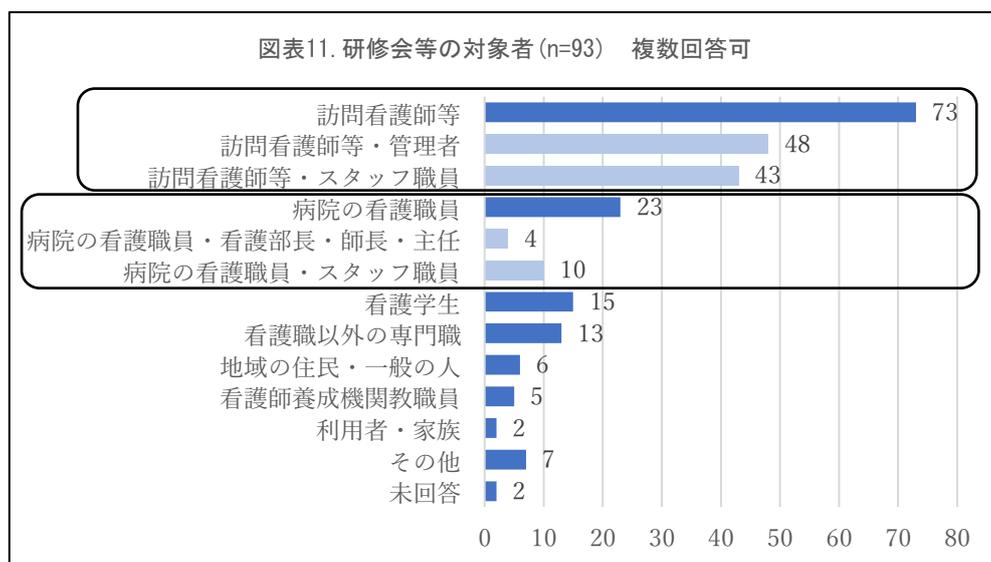
### (2) 研修会等の対象者

「立案した」、「立案に向け準備中である」と回答したうちの研修会等の対象者について

「訪問看護師等」と回答したものは73人(78.5%)であり、うち「管理者」が48人(51.6%)、「スタッフ職員」が43人(46.2%)であった。

「病院の看護職員」と回答したものは23人(24.7%)おり、うち「看護部長・師長・主任」が4人(4.3%)、「スタッフ職員」が10人(10.8%)であった。

他には「看護学生」15人(16.1%)、「看護職以外の専門職」（ケアマネジャー、介護職員等、理学療法士等、福祉職）13人(14.0%)、「地域の住民・一般の人」6人(6.5%)、「看護師養成機関教職員」5人(5.4%)、「利用者・家族」2人(2.2%)の順であった。

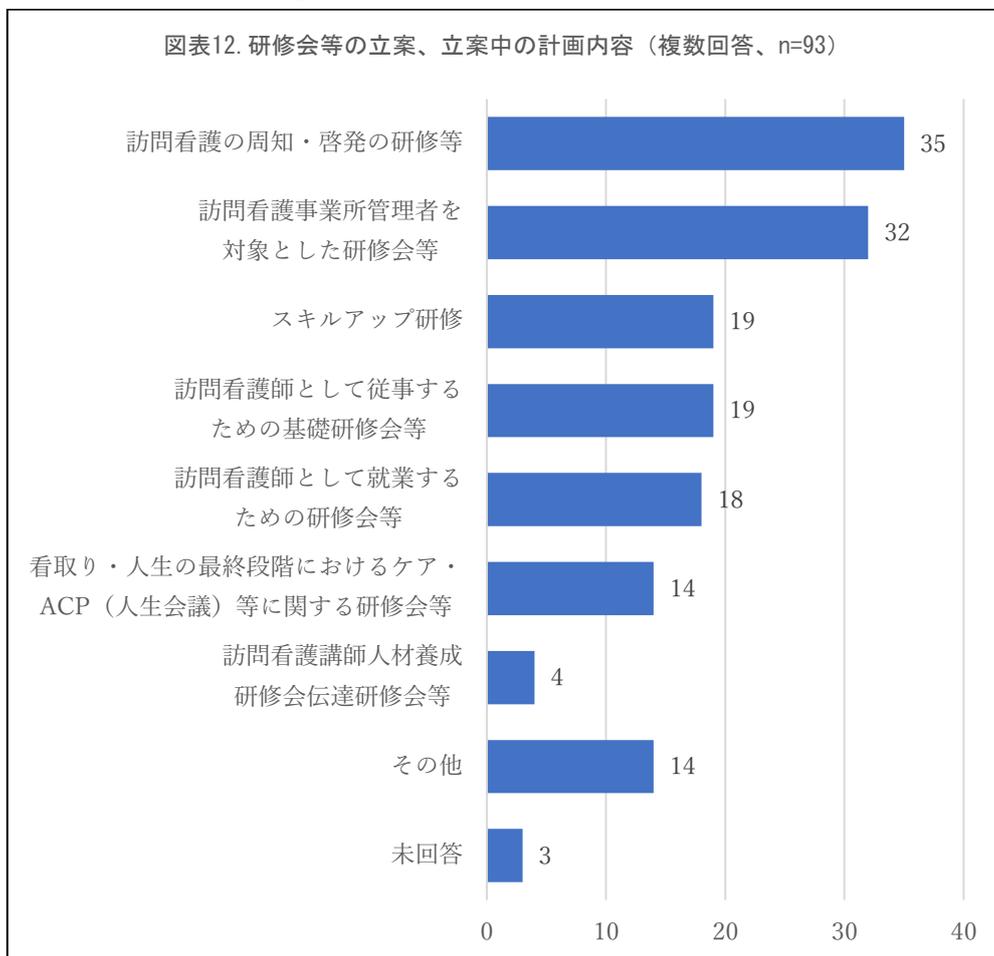


「その他」の回答は7人(7.5%)で、その内訳は「潜在看護師」、「保健所保健師」、「中学生」等であった。

### (3) 研修会等の立案、立案中の計画内容

立案または立案中の研修会計画内容について

「訪問看護の周知・啓発の研修等」35人(37.6%)、「訪問看護事業所管理者を対象とした研修会等」32人(34.4%)、「スキルアップ研修」19人(20.4%)、「訪問看護師として従事するための基礎研修会等」19人(20.4%)、「訪問看護師として就業するための研修会等」18人(19.4%)、「看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP（人生会議）等に関する研修会等」14人(15.1%)、「訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会等」4人(4.3%)の順であった。



「その他」については14人(15.1%)の回答があり、内容は以下の通りであった。

- ・新人訪問看護師指導者研修
- ・病院と在宅の連携
- ・コロナ禍でのステーション間の連携
- ・事業所における感染対策について
- ・在宅移行支援等
- ・介護保険についての知識
- ・訪問看護師として就業を継続できる研修会
- ・新人看護師のフォローアップ研修
- ・在宅における災害時の対応について
- ・訪問看護の魅力を発信できる人材の育成
- ・中学生に訪問看護の魅力を伝え訪問看護師を目指す人を増やす

#### (4) 計画の進捗状況

次年度開催予定及び計画中
・計画書作成中、内容検討中、立案検討中
・計画書を作成・提出し、講師の人選、依頼
・計画書を作成し、連絡協議会の教育委員会に提出、開催時期・会場・講師を手配した。
・行政の委託（プロポーザル）の企画書作成、次年度の研修計画書作成
・令和3年度の研修計画を立案中、これから講師交渉に入る
・令和3年度の研修について、講義内容・開催日、会場などについて調整を行っている。
・大まかな計画を立て来年度に対象者の所属機関に交渉予定
・地区内の管理者宛にアンケートを配布し、今後の小児訪問看護の受け入れと研修を企画した場合の参加意思確認を行っている。（現在進行中）アンケート集計後令和3年度の地区内での研修を計画予定。
・青森県訪問看護ステーション連絡協議会での来年度の研修として取り上げる予定。来月の理事会で承認を得てから、準備していく事となる。
・2021年1月30日（土）に会議も行われ、計画はきっちり組んでいる。あとは、4月以降に再度会議を開催し、2021年度行うか行わないか決定する方向性。
・協議会とOJT研修についてWeb会議を実施し運営方法を検討した。
・計画書を立案し、ズームウェビナーによる研修を計画実施した。講師を手配した。
・事業費を獲得するための計画書を作成・提出した
・令和3年の岡山県訪問看護ステーション連絡協議会で開催する研修会の地域で行う研修会に盛り込んでもらうように計画している
・企画案はそのまま、次年度に実施予定。日程調整と講師依頼はこれからの予定である。
・令和3年度の教育計画に訪問看護人材育成として管理者の現地研修を計画した
・2月中に開催予定です。
・令和3年3月3日に「望む生活を支える意思決定支援 ～事例から学ぶACP（実践編）」開催。地域保健所、訪問看護ST（人材養成研修受講メンバー）と共に計画・立案行い、開催
・計画書を作成し、次年度の地域での活動計画に盛り込んだ。会場、講師を検討中。 7～8月頃開催予定で調整中
・講師依頼を行い、研修内容をお伝えした。時期は5～6月の予定。
・期日：令和3年6月 平日 17:00～18:30 対象：県下の訪問看護師全員 テーマ：病棟看護師に訪問看護を伝えよう 令和元年、2年の受講者が計画を立案中
・開催日を令和3年7月と予定しているが、コロナで具体的企画の話合いが出来ていない
・＜対象者＞訪問看護ステーションの管理者をめざしている者、または管理者経験3年未満の者＜目的＞訪問看護ステーションの長期ケアを担う組織看護管理者に必要な基本知識・技術・態度を習得する。訪問看護ステーション運営の基礎を習得する。 ＜日程及び内容＞・6月～7月：eラーニング（8時間）・8/6：集合研修（6時間）・8月下旬：実習・8月から11月：アクションプラン立案・実施 集合研修9/3・11/12・12/8アクションプラン発表
・年間の計画を三重県の参加者全員で検討し作成し、令和3年度の管理者の研修として企画した。4月から活動開始する。

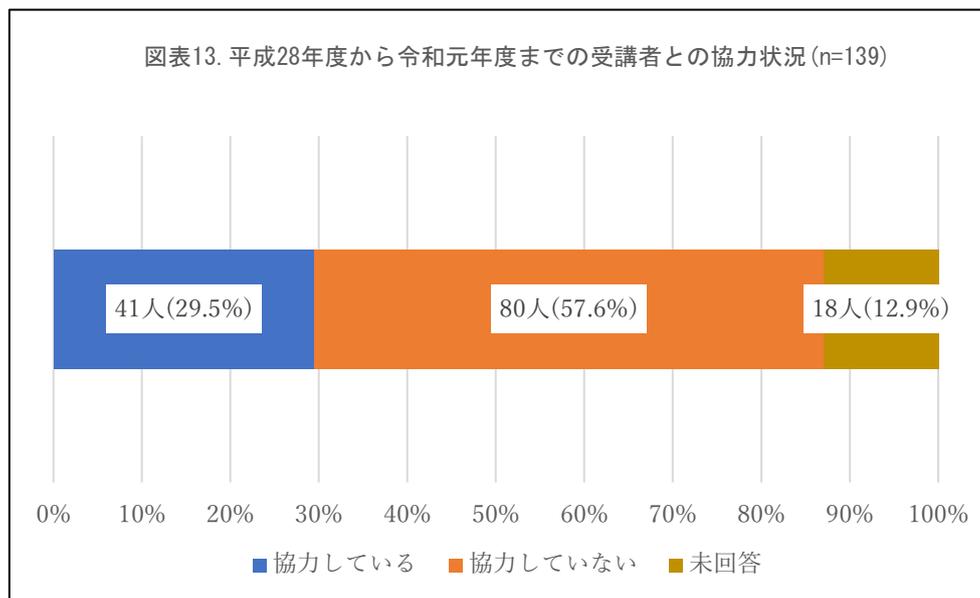
1. 2021 年度神奈川県訪問看護ステーション協議会 県央地区ブロックの研修会にて、研修予定（講師依頼済み）
2. 教育ステーション（相模原市訪問看護ステーション管理者会）にて研修会開催（未定）
・令和3年7月、岡山市体験研修事業で若い看護師向けの訪問看護の魅力を伝え、体験研修への参加を紹介する交流会を計画中。方法についてさらに検討が必要。
・令和3年度中に、連絡協議会主催の研修の一つとして開催する予定
<b>企画準備中</b>
・元々新人訪問看護師指導者研修を開催しているので、R2 受講者に研修担当になってもらい、企画を再編していく予定
・県や看護協会主催でできないか、主催でなくてもバックアップしてもらえないか打診中
・シンポジストを募っている段階
・県へ補助金申請するための準備中。看護協会の教育計画冊子に載せてもらえるように募集要項作成
・以前より看護学生や看護協会において県委託の在宅推進人材育成研修会等の講師を行わせていただいているが、コロナ禍の中、現時点で実施可能な事として、併設病院において訪問看護の周知・啓発の研修や在宅移行支援研修を再度実施していきたいと考えている。また、ラダー教育の中で、在宅看護理解のための研修の時間が頂けるよう計画書を作成していきたい。
・症例や課題等を集約中。地域の団体や関係機関へ研修会の賛否を確認中。
・次年度の研修として計画、講師も考えているがまだ、依頼までには至っていない
・地域内で協力者を募っている
・4月以降に向けて役員メンバーと相談を企画している段階
・訪問看護の質向上や経営安定のための管理者研修を行う予定である。
・開催の時期・内容・講師依頼を手配。県の訪問看護ステーション連絡協議会の教育担当に企画を伝えた。
・次年度新学期に教育委員会、各中学校に行き、計画実施に向けてお願いする予定
・推薦元の委員会活動を通じて、訪問看護の推進等に向けた取り組みを行っている。今年度は情報収集等の準備期間であり、次年度は研修等の開催を計画予定である。
・新人管理者・スタッフへの OJT 研修のための会議を開催して計画している。
・県訪問看護ステーション協議会に報告書を提出し、管理者研修としての開催の必要性を伝え、理解を得た段階。令和3年度の企画として、4月以降に具体的に準備を開始する予定。
<b>その他</b>
・令和3年3月開催予定でしたが、コロナの影響で中止となったため、日程や会場など改めて検討予定。
・既存の事業に今回の計画を組み込み、内容、開催時期、場所等を検討したが、コロナ感染拡大のため開催時期を延期している。
・研修会内で企画した内容までで、実際には動けていない。
・具体的な内容・スケジュールまではまだ話し合っていない。
・講師予定だったが、緊急事態宣言にて開催に至らなかった
・次年度以降、感染拡大がまだまだ懸念されるため、企画が進行していない状況

<p>・当サポートセンター業務は、県からの委託を受け訪問看護事業所をサポートする事、並びに地域への訪問看護を広報・推進を目的にしたものである。年間の研修計画を立て県内の事業所に研修計画を発信し実施をしている。前年は新型コロナウイルス感染症対策で活動制限があったが、地域へは、就職説明会への参加や県下のイベント時に訪問看護広報のリーフレット配布、一般の方の訪問看護への電話相談への対応等行っている。4)に記載したが人材確保や人材育成については訪問看護事業所への調査を予定し現状や問題点について分析していきたいと思う。</p>
<p>・地域の管理者委員会に計画した研修の依頼と会場の予約ステーション連絡会との連携研修の打診 ・第二弾コロナ感染研修の計画 ・ステーションで活用できる感染フローシート作成の配布</p>

## 6) 平成28年度から令和元年度までの受講者との協力状況

平成28年度から令和元年度の本研修会を受講者との協力状況について

「協力している」と回答したものは41人(29.5%)、「協力していない」と回答したものが80人(57.6%)であった。



### (1) 協力している具体的な内容

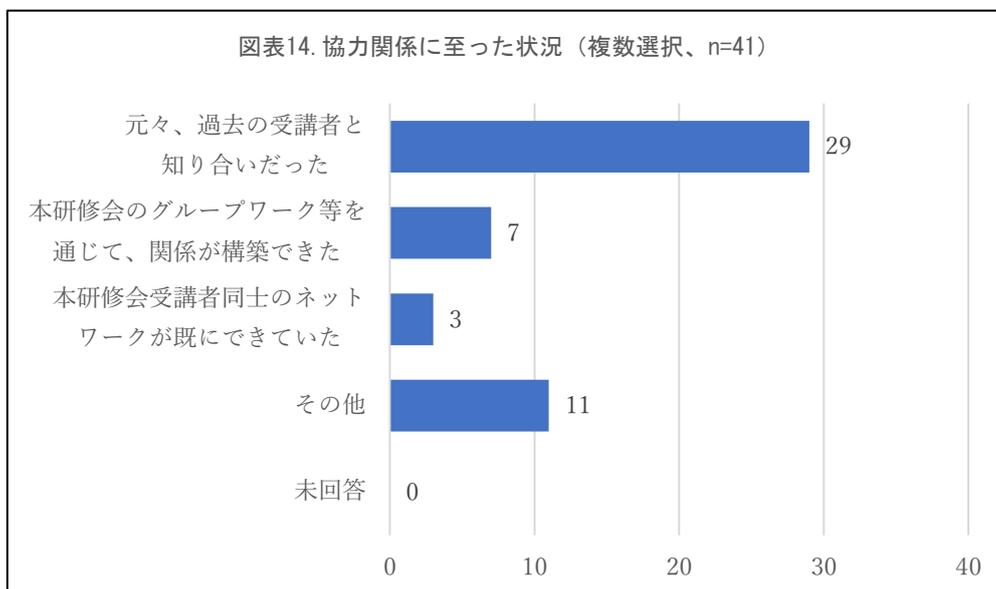
「協力している」と回答した方の具体的な内容について (自由記載・一部抜粋)

- ・研修会の内容・企画のアドバイスや協力を得た。
- ・受講者が、昨年度から OJT を企画している。管理者研修の一環であり、一緒に活動している。
- ・訪問看護の実務相談や具体的なアドバイスをいただいている
- ・訪問看護に関する情報交換を行っている
- ・地域ステーションの代表として行政や他団体と連携している。
- ・地域の行事に参加し訪問看護の PR を行っている
- ・研修会受講者が同じ職場にいる

## (2) 協力関係に至った状況

協力関係に至った状況について

「元々、過去の受講者と知り合いだった」が29人(70.7%)で最も多く、次いで「本研修会のグループワーク等を通じて、関係が構築できた」が7人(17.1%)、「本研修会受講者同士のネットワークが既にできていた」が3人(7.3%)であった。

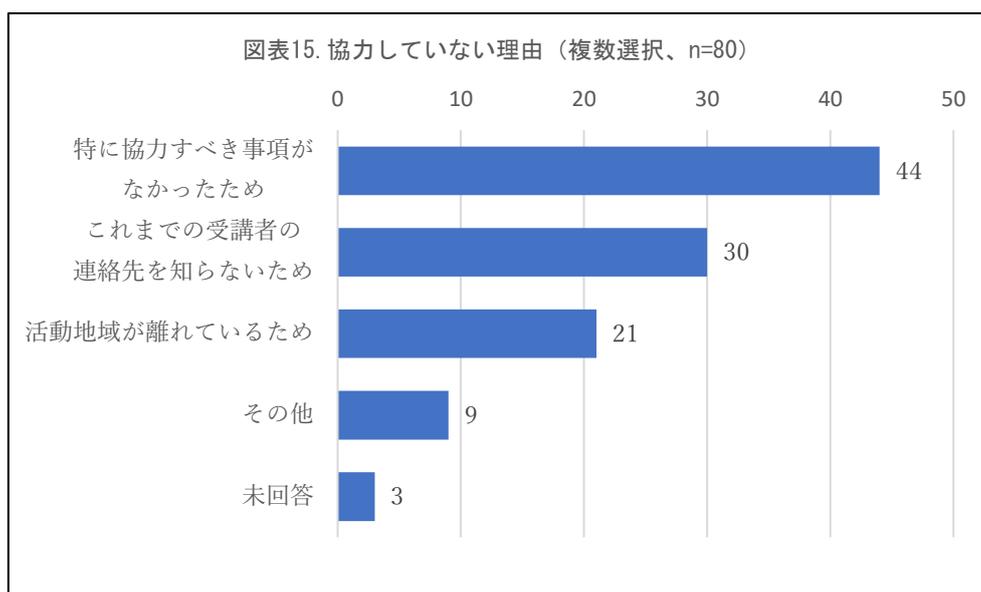


また、「その他」の回答は11人(26.8%)で、内容は「訪問看護ステーション連絡協議会で関わりがあった」、「受講者が同じ職場にいる」、「看護協会より依頼要請があった」等であった。

## (3) 協力していない理由

協力していない理由について

「特に協力すべき事項がなかったため」が44人(55.0%)で半数を超え、次いで「これまでの受講者の連絡先を知らないため」が30人(37.5%)、「活動地域が離れているため」が21人(26.2%)であった。

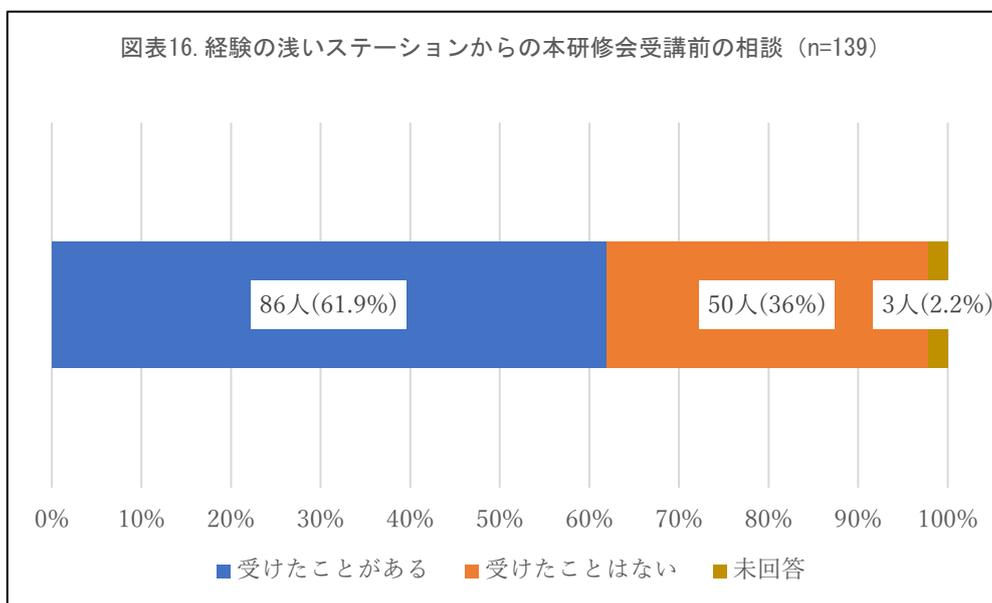


「その他」の回答は9人(11.3%)で、内訳は「本研修会を初めて知った」「過去の受講者の協力できる事項がわからなかった」等であった。

## 7) 地域の経験の浅い訪問看護ステーション等からの、訪問看護サービスやその他関係機関との調整等に関する相談への対応状況

### (1) 経験の浅いステーションからの本研修会受講前の相談

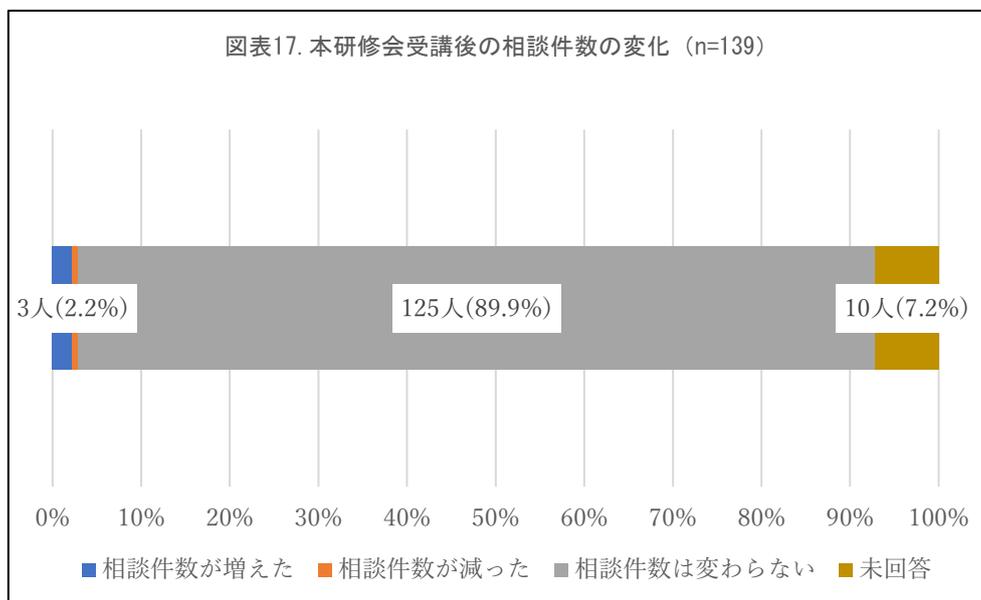
本研修会を受講する前に経験の浅いステーションからの相談を受けたことがあるかについて「受けたことがある」が86人(61.9%)、「受けたことはない」が50人(36.0%)であった。



### (2) 本研修会受講後の相談件数の変化

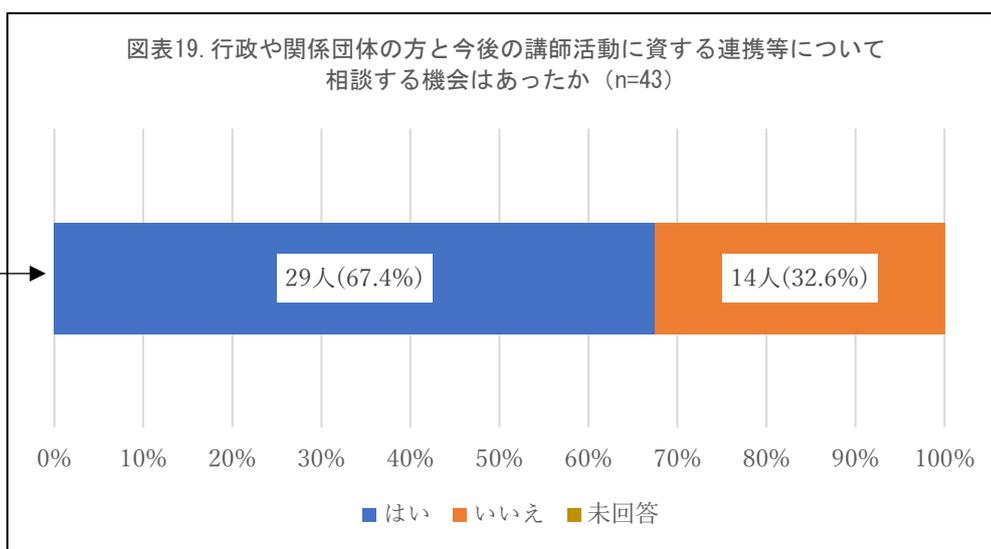
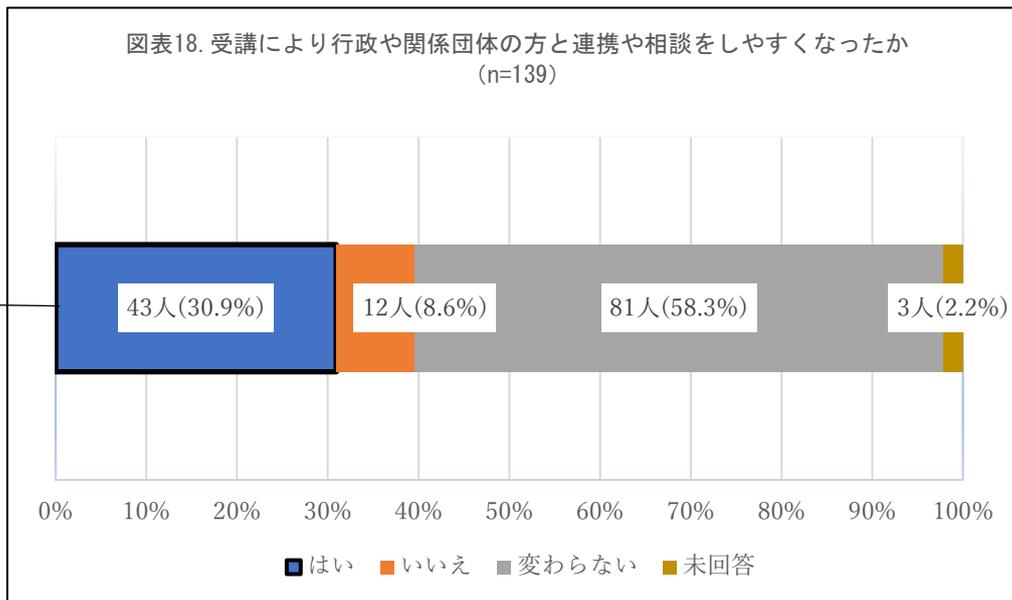
本研修会受講後の相談件数の変化について

「相談件数は変わらない」が125人(89.9%)と9割弱であった。「相談件数が増えた」と回答したものは3人(2.2%)、「相談件数が減った」が1人(0.7%)であった。



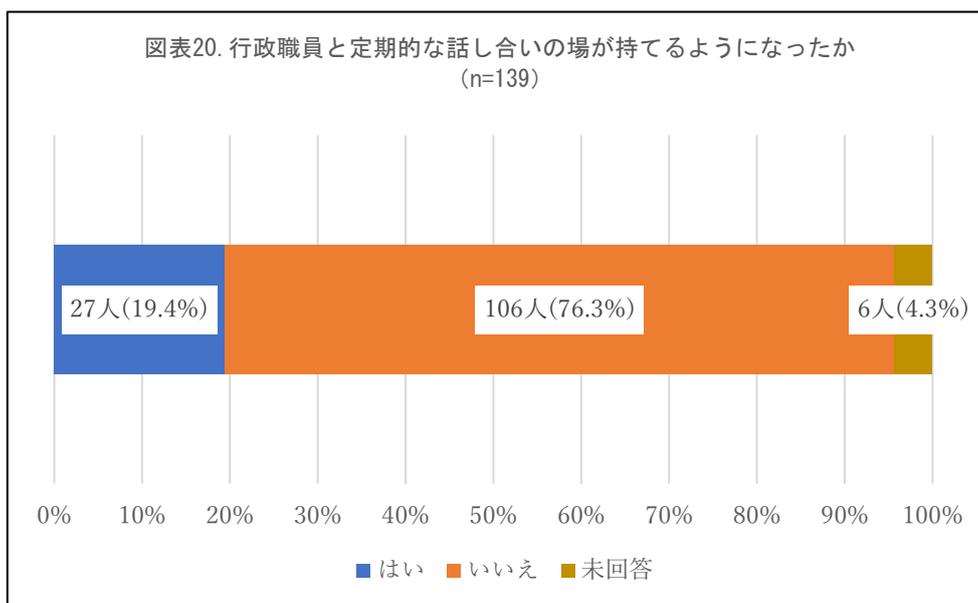
### 8) 受講により行政や関係団体の方と連携や相談をしやすくなったか

本研修会の受講により、都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしやすくなったかについて、「はい」と回答したものが43人(30.9%)、「いいえ」が12人(8.6%)、「変わらない」が81人(58.3%)であった。



### 9) 行政職員と定期的な話し合いの場が持てるようになったか

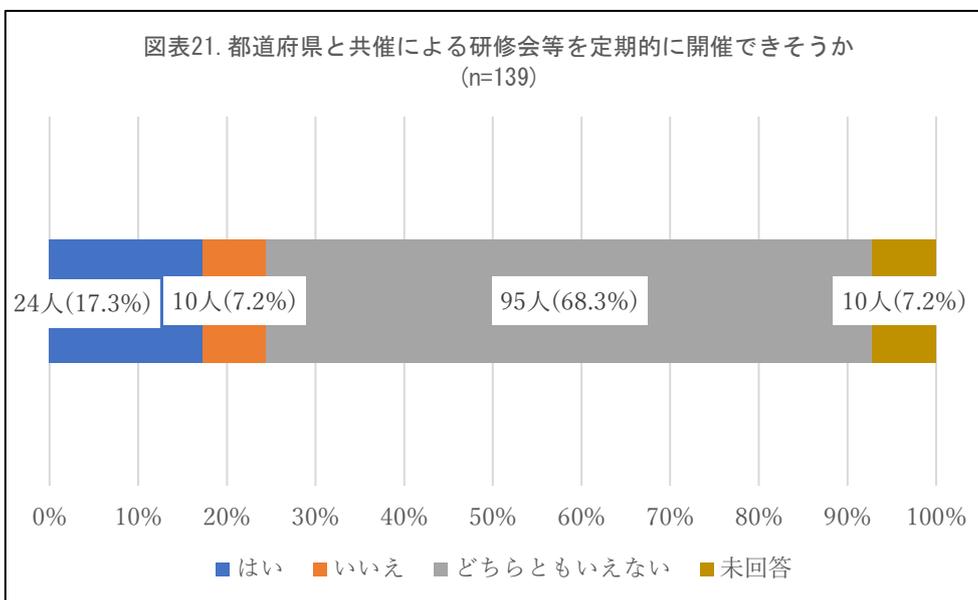
都道府県の職員と訪問看護に関して定期的な話し合いの場が持てるようになったかについて「はい」と回答したものが27人(19.4%)、一方「いいえ」が106人(76.3%)であった。



### 10) 都道府県と共催による研修会等の定期的な開催

都道府県と共催による研修会等が定期的に開催できそうかについて

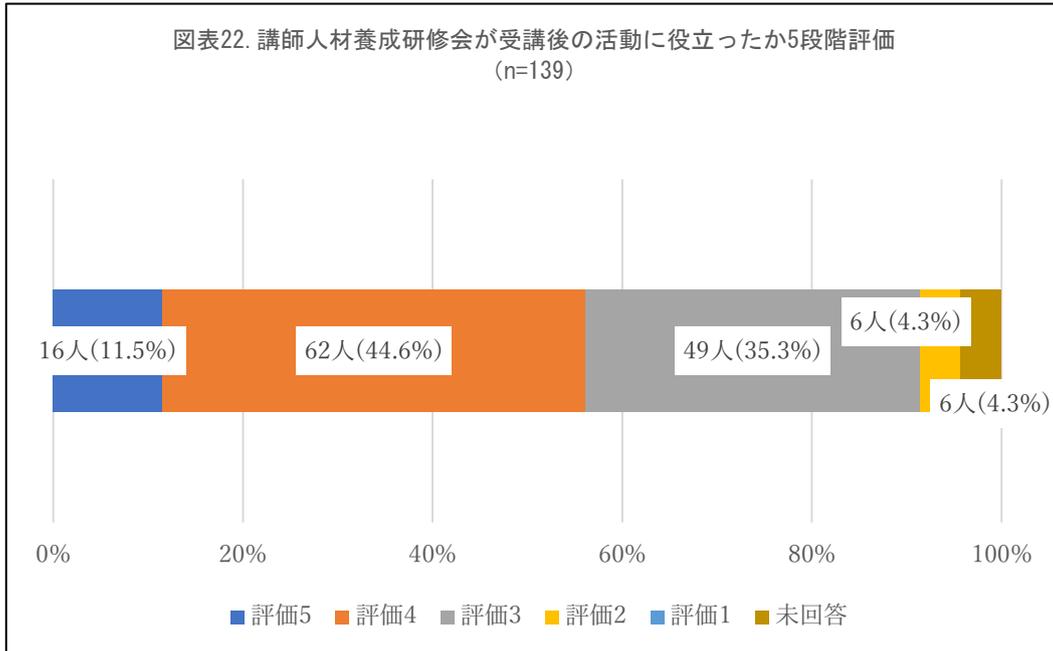
「はい」が24人(17.3%)、「いいえ」が10人(7.2%)、「どちらともいえない」が95人(68.3%)であった。



### 11) 講師人材養成研修会が受講後の活動に役立ったか

訪問看護講師人材養成研修会で学んだことが、受講後の活動に役立ったかについて

5段階評価で、「評価5」が16人(11.5%)、「評価4」62人(44.6%)、「評価3」49人(35.3%)、「評価2」6人(4.3%)となっており、評価平均は3.7であった。



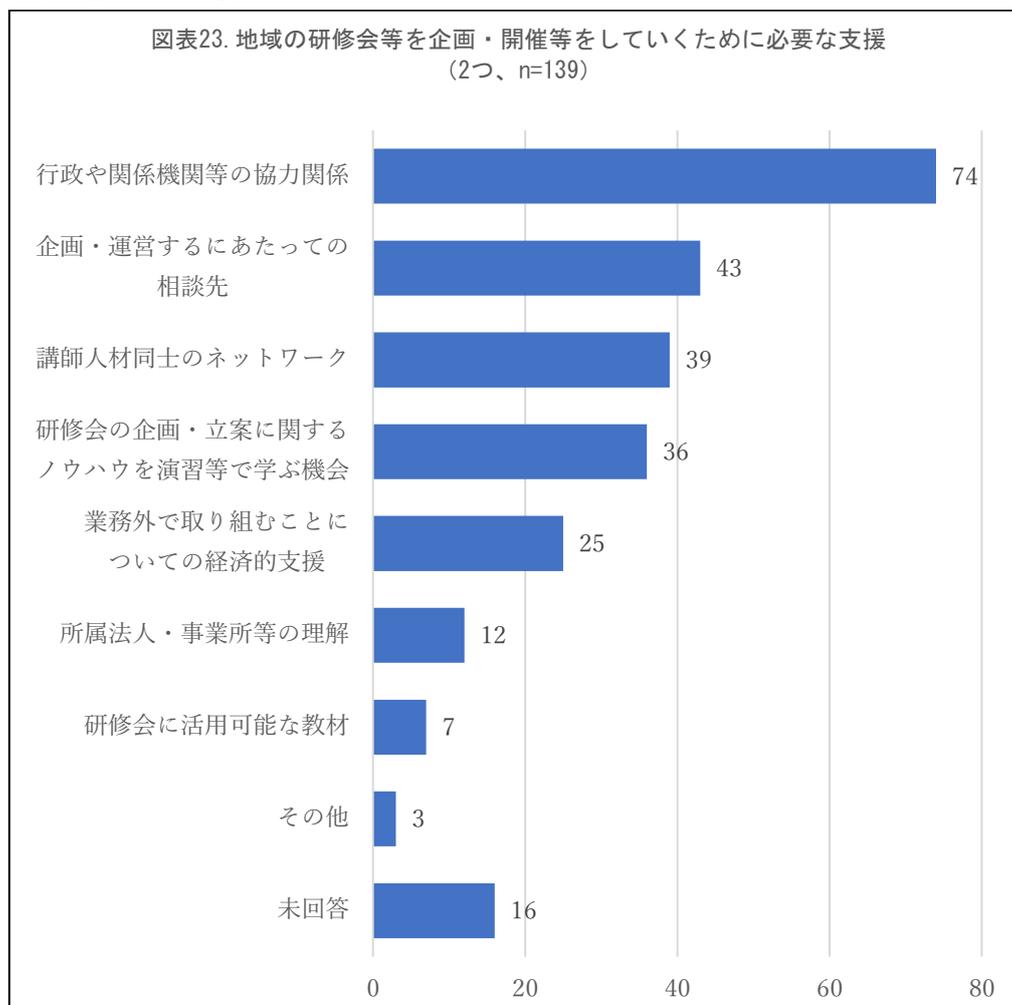
## 5 段階評価の評価理由 (一部抜粋)

<b>■評価 5</b>
・行政担当者や、関係団体、他ステーションの方と繋がりができた
・自地域の課題が明確になり、今後の課題が共有できた
・訪問看護の現状と課題、人材育成に関する基礎知識を学ぶ事ができ、事業計画に活用することができた
<b>■評価 4</b>
・DVD での学習は何度も視聴し学習する事ができるので良かった。
・あらためて、学習支援や人材育成について学ぶことができた。今後にも活用していきたい。
・ファシリテーターのファシリテーションがすばらしく、時間内に満足度の高い GW が行えた。ファシリテーション技術が勉強になった。受講後、カンファレンスや会議で役立っている。
・地域で活躍している訪問看護師の方との意見交換が非常に有効だった。今後も講師依頼や研修企画の立案等お互いに情報交換や相談をしながら関係性を維持していきたい。過去の受講生が集まり連携・活動ができたらい。
<b>■評価 3</b>
・知識としては役にたったが、今回受講した内容だけでは、自信が持てない。しかし今回の研修会に参加したことで、研修会の企画のノウハウを学ぶことができ、研修会を企画するうえで役立つと思う。
・講師としての実践が少ない人にとっては、講義内容の立て方や資料作成、プレゼンの仕方なども研修計画と合わせてトレーニングされると良いと感じた。もう少し実践に向けた研修も入れて欲しいと感じた。
・訪問看護に対する、地域に根付いている認知度の低さを改善する事が必要と感じているが、小規模事業所で活動出来ることは少なく、日々の業務で手一杯。学びを活かせる方向に自分を動かすには状況的につらいものがある。
<b>■評価 2</b>
・本年度受講でまだ実践していないため評価できない。今後研修会を開催する機会があれば、活かしていきたいと思う。
・小規模ステーションで、管理者としても訪問看護の経験者としても未熟でまだ知識を吸収していく段階であり、そのような立場ではないため。
・もともと講師経験があり、自分の活動範囲が拡大しておらず、受講によっての環境や状況の大幅な変化がなかったため

## 12) 地域の研修会等を企画・開催等をしていくために必要な支援

地域の研修会等を企画・開催等をしていくためにどのような支援が必要かについて（2つまでの複数回答）

「行政や関係機関等の協力関係」が74人(53.2%)で最も多く、次いで「企画・運営するにあたっての相談先」43人(30.9%)、「講師人材同士のネットワーク」39人(28.1%)、「研修会の企画・立案に関するノウハウを演習等で学ぶ機会」36人(25.9%)、「業務外で取り組むことについての経済的支援」25人(18.0%)、「所属法人・事業所等の理解」12人(8.6%)、「研修会に活用可能な教材」7人(5.0%)の順であった。



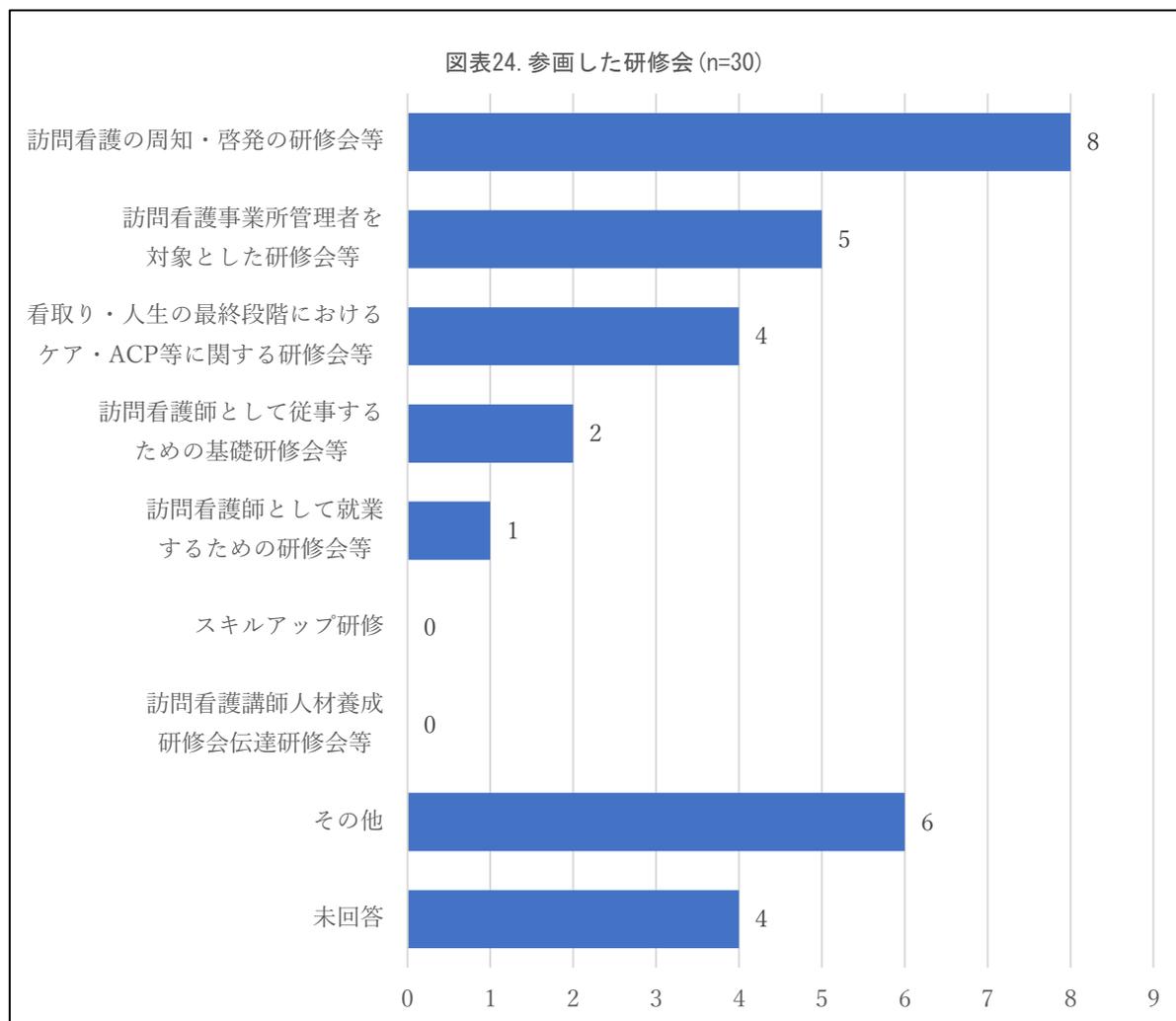
「その他」の回答は3人(2.2%)で、以下の通りであった。

- ・集合研修は人的ゆとりがないと参加が難しい。オンデマンド研修やインターネット研修等実施方法の検討が必要
- ・このアンケートもそうだが、この手のものに対するボランティア精神の求められ方に異常性を感じる。時間拘束に対する報酬が無ければやらないとは言わないが、当たり前の様な状況を改善すべきと思う。
- ・職員のマンパワー不足により、日ごろの訪問看護業務で精一杯の状況。

## 2. 「研修会を開催した」「講師として活動した」と回答した人の研修会詳細について

### ①参画した研修会について

「訪問看護の周知・啓発の研修会等」8件(26.7%)が最も多く、次いで「訪問看護事業所管理者を対象とした研修会等」5件(16.7%)、「看取り・人生の最終段階におけるケア・ACP等に関する研修会等」4件(13.3%)、「訪問看護師として従事するための基礎研修会等」2件(6.7%)、「訪問看護師として就業するための研修会等」1件(3.3%)の順であった。「その他」の6件(20.0%)あった。



## ② 研修会のタイトル

看取り関連
アドバンスケアプランニング（ACP） 訪問看護師が行う意思決定支援 エンディングノートのすすめ
感染・防災関連
訪問看護ステーション同士の災害・感染症対策連携を考える 訪問看護における医療安全と感染管理 看護管理者に必要な減災 防災マネジメント コロナ禍における労務管理
スキルアップ関連
精神障害のある方の理解と支援、通園・通学する医療的ケア児の日常生活をつなぐ・支える 在宅医療・介護スキルアップ研修 訪問看護の確保と質の向上
その他
新卒訪問看護師育成事業成果報告会 みんなで守ろう！個人情報 ハラスメント対策研修 在宅療養連携研修会「在宅での生活を支える視点の共有～退院連携事例での取り組み～」 地域課題を解決するために～看護師にできること～

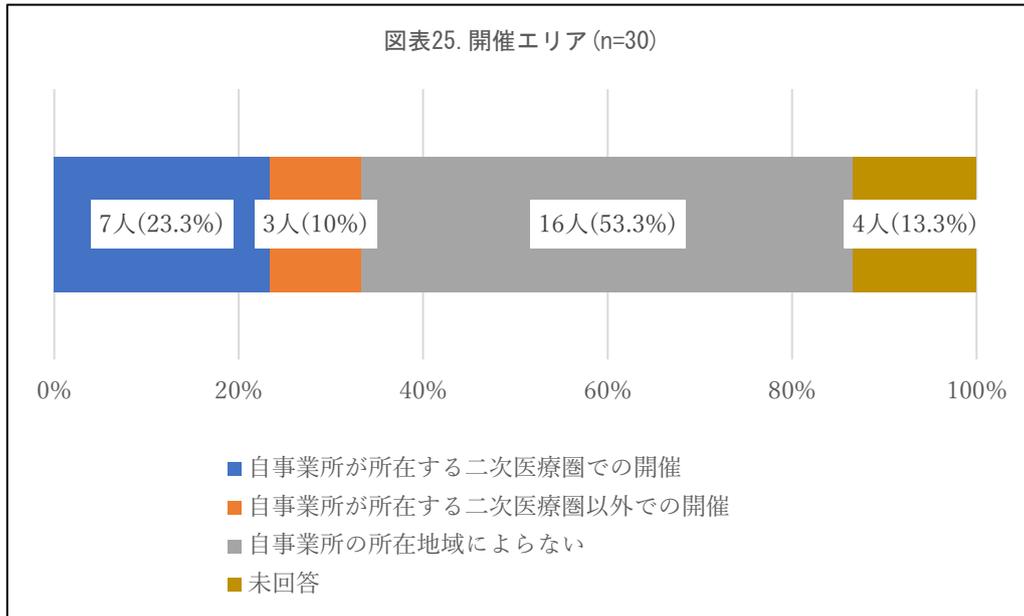
### ③ 具体的な内容

<p>新型コロナ・災害対策関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各訪問看護ステーションにおいてコロナ感染症が発症した場合、地域のステーション同士助け合う連携システム構築について考えて頂く場を設けた。</li> <li>・訪問看護における医療安全の実際・訴訟事例の紹介・感染管理の実際・COVID-19 への対応</li> <li>・管理者に必要な労務管理の基礎及び、コロナ禍に対応した労務管理のあり方を学ぶ</li> <li>・災害時要配慮者への対応～訪問看護ステーションにおける災害対応・災害時、地域の病院との連携・訪問看護ステーションの災害時の BCP・利用者、事業所の日頃の防災教育</li> </ul>
<p>ACP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ACP の初歩的な講義</li> <li>・ACP について多職種で考えることとし、人生最終段階における食支援の在り方について、3 回シリーズで企画した最終の 1 回を 1 月に実施した。3 回シリーズは、セラピストの出来ること、歯科医師・歯科衛生士の出来ること、栄養士の出来ること、訪問看護師の出来ることを通して支援の在り方を考える内容とした研修会を実施した。</li> <li>・一般市民向けの健康セミナー。訪問看護で経験した事例を通して、ACP、エンディングノート必要性について講義した。</li> </ul>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン対応 前半は管理者の経営に関する講義、後半はグループワーク形式で行った。</li> <li>・宇都宮宏子先生を講師に地域で ZOOM 研修を実施 35 名の参加あり</li> <li>・在宅での生活を支える視点の共有 -退院連携事例での取り組み-集合研修とオンライン研修を組み合わせたハイブリッド研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に退院事例を提供し、病院看護師が在宅で暮らす利用者の生活の視点や退院指導内容、訪問看護の役割などを観察し、グループワークで参加者同士の考えを共有する。在宅生活の実際を動画などで視聴し、お互いの強みをグループワークで再度話し合う。訪問看護認定看護師を講師とし、この事例を通して、チーム連携について講義してもらい、看看連携や多職種連携などチーム連携の必要性を再確認した。</li> </ul> </li> <li>・訪問看護研修会主催者が、研修の企画・運営に関する基礎的知識を理解し、継続的に効果的な研修を実施できることを目的に、看護大学教員による「学ぼう！訪問看護研修会の企画・実施・評価～育てよう！ぐんまの訪問看護師」と題した講義を受け、グループワークを行う。</li> <li>・訪問看護をとおして、医療管理中心ではない、リスク管理に偏らない、その人がしたい生活や過ごしたい時間をサポートするということについて、地域の介護事業所の皆さんと考える。自分達の役割を再考する。家で生活を続けることについて再考する。</li> <li>・岡山県看護協会が実施している新卒訪問看護師育成事業に参加している 1 年目と 2 年目の新卒者及び指導者が成長過程を振り返る。事業の概要も周知。受講者は看護学生、教員、ステーション管理者等 30 人程度。受講者と発表者による意見交換、人材育成強化担当チームの看護教員からもコメントをいただく。研修の企画、報告者を担当した。</li> <li>・訪問看護での暴力対策についてと題して、暴力・ハラスメント対策の基本や事業所の体制・現場での対応等の内容で講義を依頼。今回県主催の研修会に共催した。</li> </ul>

<p>・対象者：医療的ケア児に関わる専門職種（訪問看護認定看護師、訪問看護師、病院看護師など看護職、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士など医療職、障害児支援相談員、障害児通所支援事業所など保健所や市役所など行政機関の障害担当者、小児系病床を持つ医療機関の関係者、小児往診医など）医療的ケア児の保護者（参加費無料）＊北関東ブロック会員は自身が活動する地域の専門職（機関）に周知する</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>①訪問看護で関わることの多い乳幼児期から学童期の医療的ケア児の日常生活や家族の思い、医療的ケア児を支援する多職種活動の実際を理解し、支援のあり方や多職種連携と協働について考えを深める</p> <p>②訪問看護、訪問看護認定看護師、日本訪問看護認定看護師協議会とその活動について周知し、多職種連携や地域ネットワーク強化を推進する</p> <p>③認定看護師として人材育成に関する知識や能力の向上を図る</p> <p><b>【目標】</b></p> <p>①参加者は、医療的ケア児を含む障害児の現状や医療的ケア児が活用できる制度やサービスについての概要を理解する</p> <p>②参加者は、医療的ケア児の日常生活の実態や多職種支援の実際について理解する</p> <p>③参加者は、医療的ケア児とその家族への支援をする上での、自身の役割や他職種との連携・協働について考えることができる</p> <p>④参加者は、訪問看護認定看護師や日本訪問看護認定看護師協議会の役割や活動について知る</p> <p>⑤認定看護師は、医療的ケア児家族や支援する多職種のニーズを把握し、協働での研修会の企画や運営、教育手法などについて考えることができる オンライン形式で、当事者（母親、相談員、理学療法士、訪問看護、行政、それぞれの立場から活動内容、課題などを発言していただき、共有。時間の関係で、ディスカッションはできなかった。</p>
<p>・個人情報、著作権、肖像権等の基本的考え方 事例による具体的な内容</p>
<p>・介護保険の概要・介護保険で利用できるサービス内容・訪問看護の内容（料金・ケア内容・訪問を始めたことによる成果）</p> <p>・フレイル予防のための知識の伝達</p>
<p>・連携システムの構築（支部内）</p> <p>・トリアージについて</p> <p>・県との連携について</p>
<p>・在宅療養者を支える訪問看護師の確保と質の向上 ～五島市における近隣ステーションとの連携を試みて～の発表後に訪問看護師のキャリアアップの為の取り組みについてグループワークを行った</p>
<p>・新任訪問看護師育成プログラムの活用についての説明会</p>
<p>・訪問看護ステーション設立について、その社会的意味、今後の展望、看護職に求められる役割について講演を行う予定（令和2年3月予定）</p>
<p>・精神障がいのある方とのかかわり方のコツについて</p> <p>・精神科訪問看護について</p>

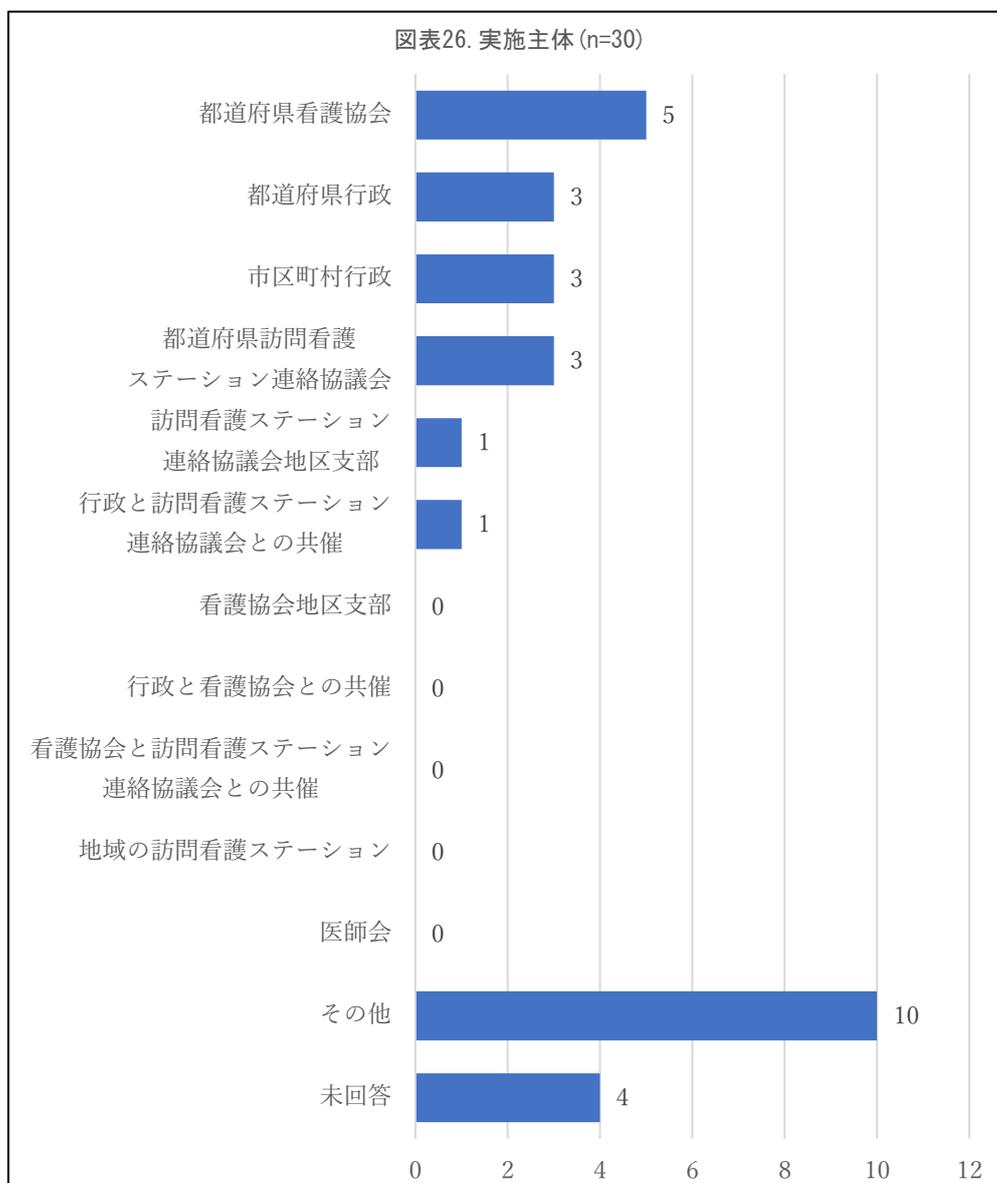
#### ④開催エリアについて

「自事業所の所在地域によらない（オンライン上での開催等）」が16人(53.3%)と最も多く半数を超え、「自事業所が所在する二次医療圏での開催」が7人(23.3%)、「自事業所が所在する二次医療圏以外での開催」が3人(10.0%)であった。



### ⑤実施主体（1つ選択）

「都道府県看護協会」が5件(16.7%)で最も多く、次いで「都道府県行政」「市区町村行政」「都道府県訪問看護ステーション連絡協議会」がそれぞれ3件(10.0%)、「訪問看護ステーション連絡協議会地区支部」「行政と訪問看護ステーション連絡協議会との共催」がそれぞれ1件(3.3%)ずつであった。

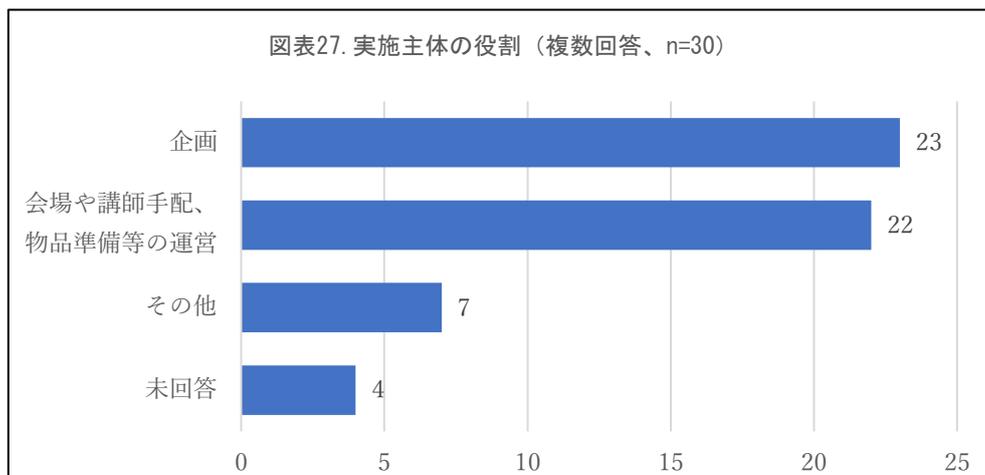


また「その他」として10件(33.3%)挙がっており、以下の通りであった。(一部抜粋)

- ・訪問看護認定看護師協議会
- ・大阪府訪問看護ステーション協会
- ・石川県医療在宅ケア事業団と訪問看護ステーション連絡会
- ・訪問看護ステーション連絡会と地域公立病院との共催
- ・所属病院の地域連携部署と認定・専門看護師委員会
- ・区のケア連絡協議会
- ・市の在宅医療介護コーディネーターとしての活動
- ・大学職員
- ・日本看護協会神戸研修センター

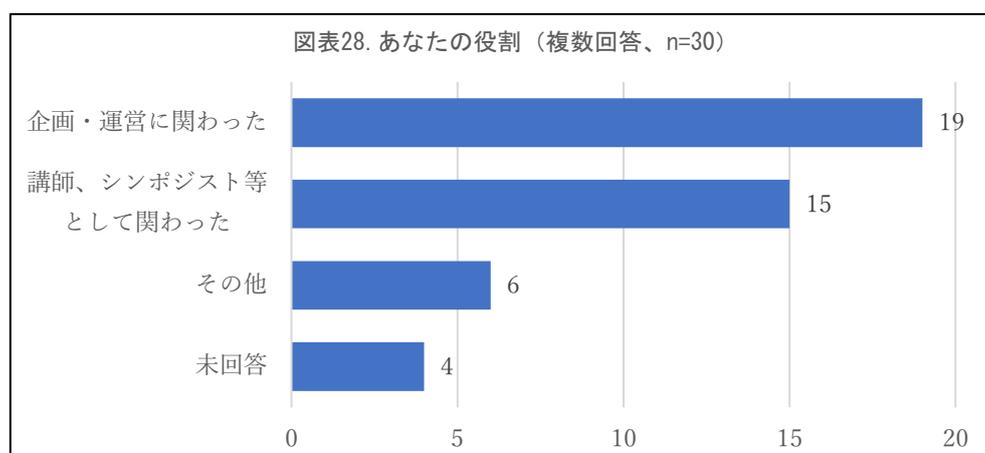
### ⑥実施主体の役割（複数回答可）

「企画」が23件(76.7%)、「会場や講師手配、物品準備等の運営」が22件(73.3%)であった。「その他」として7件(23.3%)挙がっており、内訳は「研修会周知」、「講師派遣」、「研修費負担」、「web環境準備」等であった。



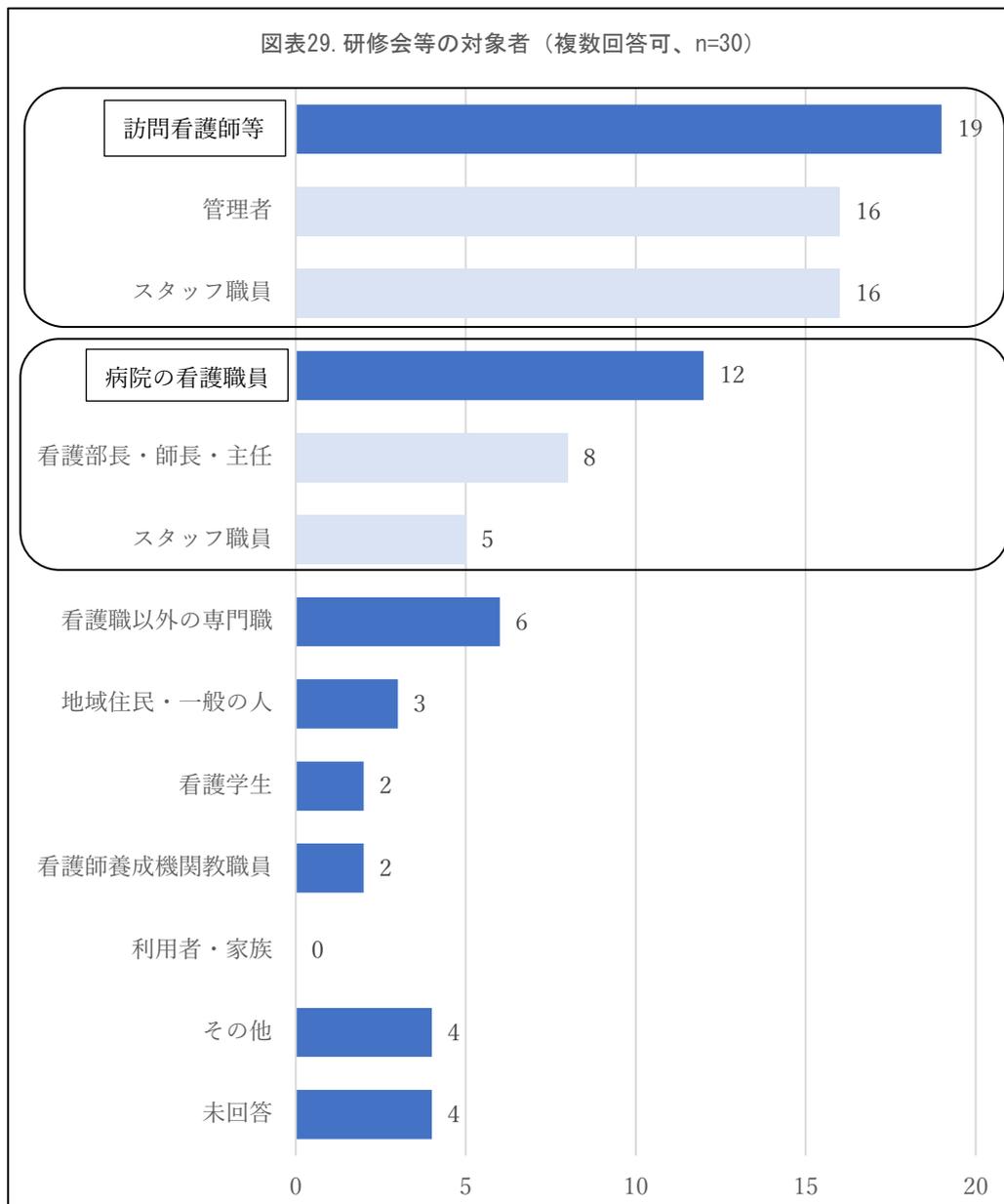
### ⑦あなたの役割（複数回答可）

「企画・運営に関わった」が19件(63.3%)、「講師、シンポジスト等として関わった」15件(50.0%)であった。「その他」は6件(20.0%)で、内訳は「ZOOMホスト」、「グループワークファシリテーター」等であった。



### ⑧対象者（複数回答可）

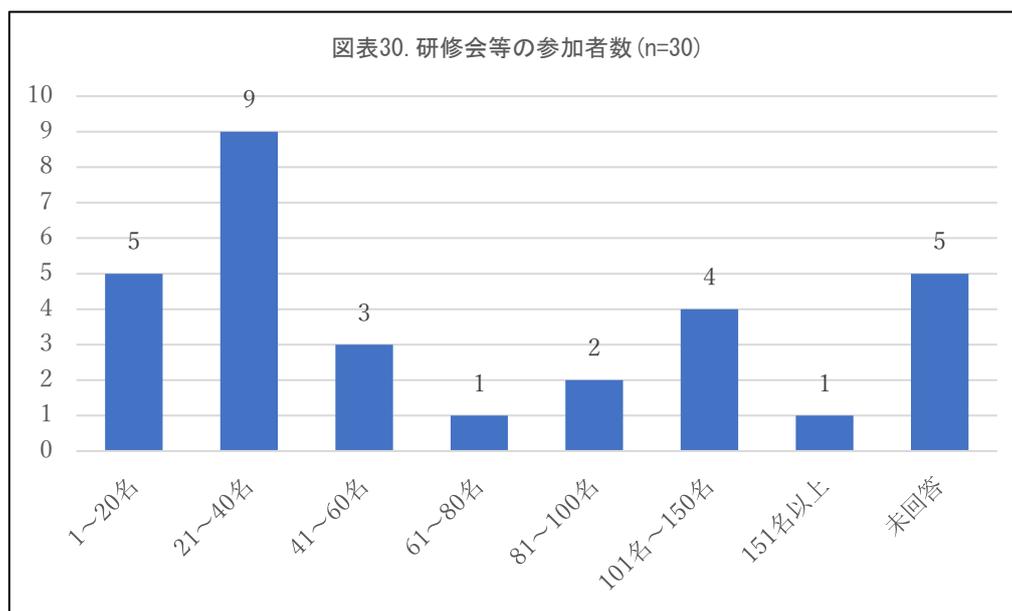
「訪問看護師等」が19件(63.3%)、うち「管理者」16件(53.3%)、「スタッフ職員」16件(53.3%)、「病院の看護職員」が12件(40.0%)、うち「看護部長・師長・主任」8件(26.7%)、「スタッフ職員」5件(16.7%)となっており、「看護職以外の専門職」（ケアマネジャー、リハビリ職、介護職、医師、歯科医師、歯科衛生士等）6件(20.0%)、「地域住民・一般の人」3件(10.0%)、「看護学生」、「看護師養成機関教職員」がそれぞれ2件(6.7%)となっている。



「その他」は4件(13.3%)で、内訳は「相談支援専門員」、「ケアマネジャー」、「医師」等であった。

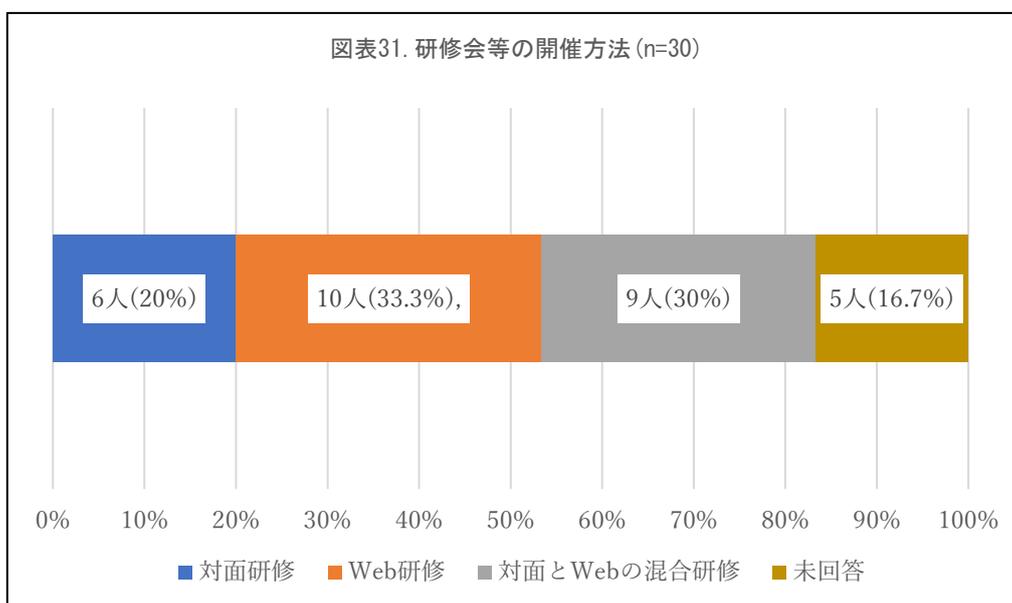
### ⑨参加者数

「21～40名」が最も多く9件(30.0%)、「1～20名」が5件(16.7%)、「41～60名」が3件(10.0%)となっており60名以下で6割弱を占めた。一方100名超も5件(16.7%)であった。



### ⑩開催方法

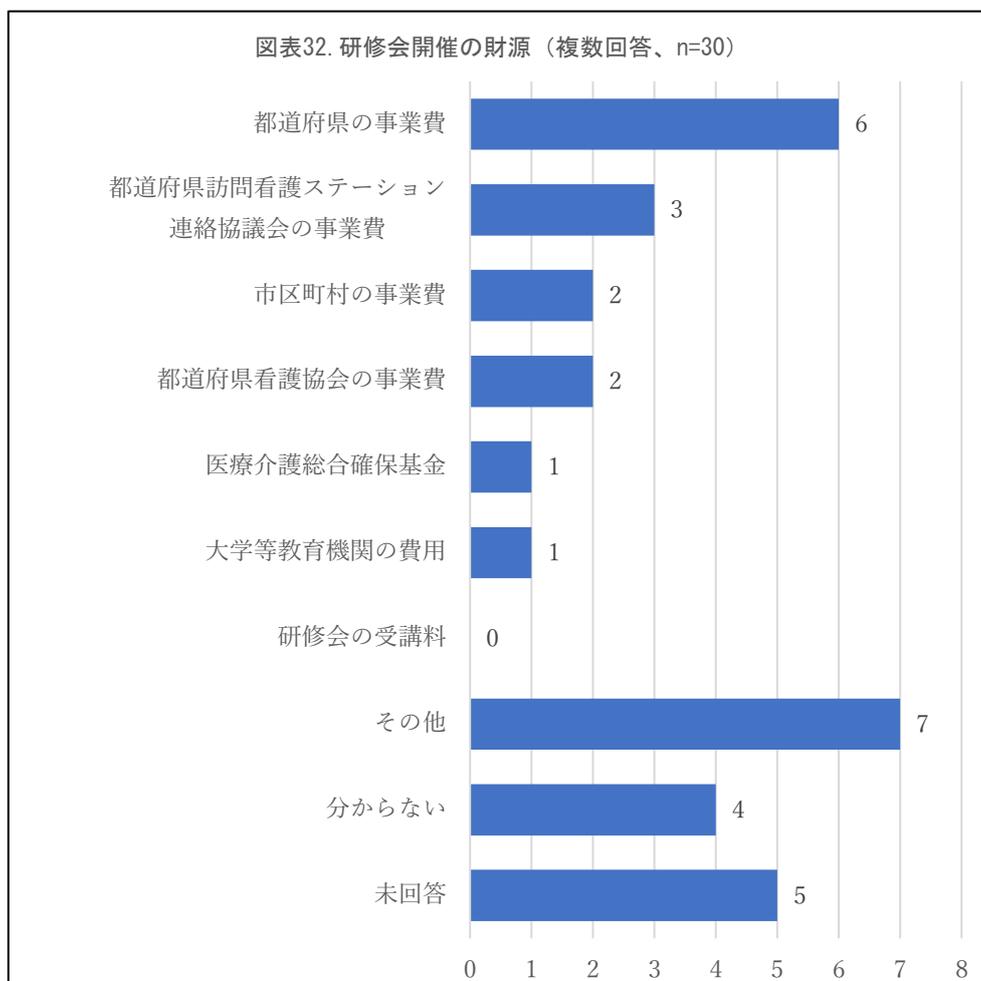
「Web研修」が10人(33.3%)で最も多く、次いで「対面とWebの混合研修」が9人(30.0%)となっており、「対面研修」は6人(20.0%)にとどまった。



### ①研修会開催の財源（複数回答可）

「都道府県の事業費」（大阪府訪問看護推進事業費、福岡県訪問看護連携強化事業費、訪問看護サポートセンター事業費、医療介護総合確保基金、県補助金等）6件(20.0%)が最も多く、次いで「都道府県訪問看護ステーション連絡協議会の事業費」が3件(10.0%)、「市区町村の事業費」（在宅医療介護支援センター事業、吉岡彌生紀記念館健康セミナー）「都道府県看護協会の事業費」がそれぞれ2件(6.7%)、「医療介護総合確保基金」「大学等教育機関の費用」がそれぞれ1件(3.3%)であった。

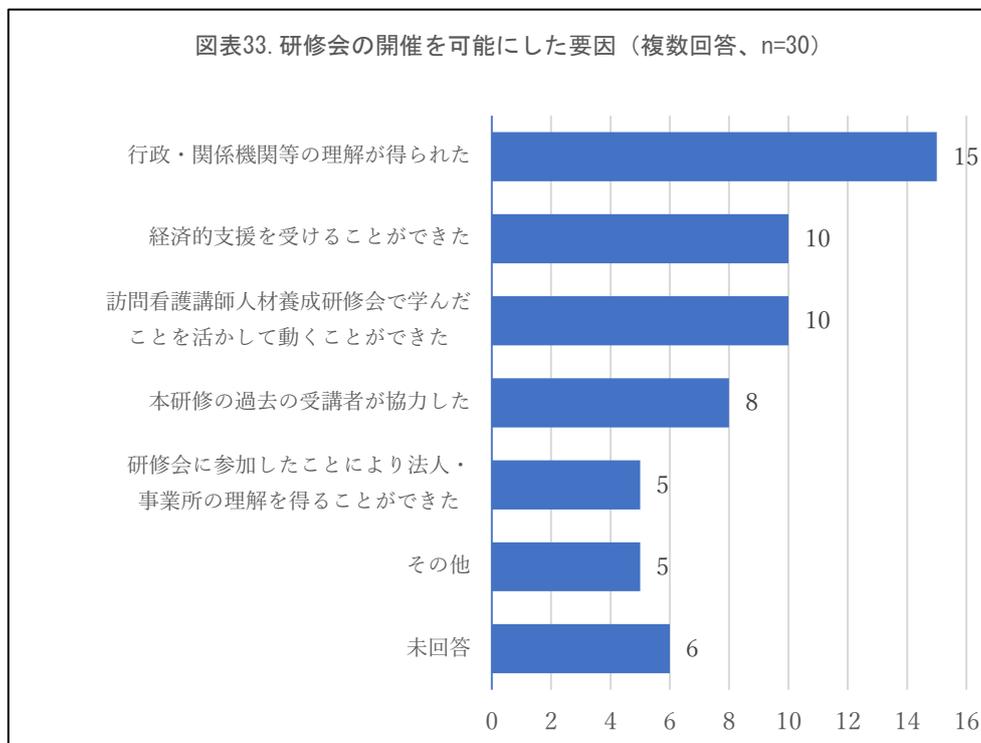
また、「分からない」と回答したものが4件(13.3%)あった。



「その他」として7件(23.3%)挙がっており、内訳は「石川県医療在宅ケア事業団」、「訪問看護ステーション連絡協議会会費」、「日本看護協会」等であった。

## ⑫研修会の開催を可能にした要因（複数回答可）

「行政・関係機関等の理解が得られた」15件(50.0%)と最も多く、次いで「経済的支援を受けることができた」、「訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた」がそれぞれ10件(33.3%)、「本研修の過去の受講者が協力した」8件(26.7%)、「訪問看護件材養成研修会に参加したことにより、所属法件・事業所等の理解を得ることができた」「その他」がそれぞれ5件(16.7%)の順であった。



### 研修会の開催を可能にした各要因の内容（自由記載、一部抜粋）

<b>■行政・関係機関等の理解が得られた</b>
・行政のリーダーシップがあった
・研修企画に行政の当研修会参加者が参加していた
・県が研修費用の負担や開催準備をした
・県や看護協会の方がテーマや研修会の方向性の相談に乗ってくれた。
・入院先であった医療機関看護部の理解があり、管理者研修会として共催できた。
・行政が医師会に業務委託しており、多職種で取り組む関係性が構築出来ている。今回はケアマネジャーの質向上に向けて研修企画した。
・県保健福祉部医療推進課保健師が事業に参加。
<b>■経済的支援を受けることができた</b>
・事業団研修として位置づけをしたため、事業団が経費負担をしてくれた
・看護協会からの支援を受けた。会議費用から講師費用まで負担いただいた。
・医師会が事務局として支援してくれているので、企画会議もスムーズに実施出来る。
・県補助事業。

<b>■本研修の過去の受講者が協力した</b>
・企画立案時に色々と意見を頂き、修正しながら行うことが出来た
・前年度受講生がアドバイザーとして企画等に参加した。
・過去の受講者が事前会議から指導・助言をくれ、さらに、研修会当日も参加いただけた。
・グループワークと研修会に参加した
<b>■訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた</b>
・何故研修が必要かを知り、自地域の課題について調べる機会となった。また、用意された紙面に具体的に企画を書いていく事で、思い描きながら立案していくことが出来た。
・訪問看護を担う人材に必要な研修として、やはり意思決定支援は重要と考えた
・研修生で、今何が必要かを共有し分析する過程を学ぶ事ができた。
・特定行為研修終了看護師の活動状況の発表の管理者研修計画に合わせて同日に研修企画を組み込んだ。
・地域の現状（高齢化率高い・高齢者世帯や高齢者独居増える・介護人材が少ないなど）をふまえ、いまいちど自分達の実践を見直し、今後に向けてやるべき事を考え、明日からも元気に頑張ろうと思える内容企画した
・意見交換の方法等活用。
・講師の依頼がきた時に、研修会に参加が出来ていたので助かった。
<b>■訪問看護人材養成研修会に参加したことにより、所属法人・事業所等の理解を得ることができた</b>
・選任していただいた事で、機会を与えて頂いた。
・コロナ禍で事業団研修が今年度開催出来ず。事業団の職員がこの研修に3人参加していた事もあり法人の理解が得られた
・地域のステーションとのつながりが深まった。・ステーションにとどまらず、病院との連携ができたために、医療法人である自施設は同じような医療法人のステーションとの連携上、お互い事情がわかり、情報交換ができるメリットを伝えることで、理解が得られた。
<b>■その他</b>
・財源はあるもののコロナで定期研修が行えなかったが、今年度中に何か現場に役立つものをと考えて実施した。2つの団体の合同企画として行った
・講師の決定がスムーズだった。
・ステーション協議会理事という立場があり、研修をスムーズに企画できた
・プロジェクトが立ち上がった時に、タイミングよく講師として発表が出来た。

⑬研修会の企画・開催における工夫（自由記載、一部抜粋）

新型コロナウイルス感染症対策関連の工夫
・出来るだけ参加しやすいよう対面と Web を使った。また、日時は参加しやすい土曜日、午前中とした。・実際に体験しているステーションの所長にお願いする事で、受講者にはよりリアルに伝わると考えた。・感染対策をしっかりと取った。
・企画も含め 6 回の Web 会議を行った。移動時間がない為有効に活用できた。
・コロナ禍での開催のため、ZOOM を利用しハイブリット方式を取り入れ実施した。
・ZOOM ウェビナー研修について検討し開催を実現できた。
・コロナ禍であるが、感染対策を徹底し、講義時間を短縮して対面研修を行った。
・グループメンバーを同地域にならないようにした。Web のグループワーク機能を使い、受講者同士の交流を持った。
・講師とも相談の上、グループワークに重きを置いた。経験がない参加者には、前日に ZOOM で参加する練習を行った。
・病院看護師に訪問看護の魅力を伝えるために、動画を利用した。コロナ禍で開催するにあたり、Web でのグループワークを取り入れた。
・講師に、企画書と併せて現状と課題を提示した。感染予防の観点から会場に集まる対象者を限定し、他はネット配信とした。
・オンラインでの開催や、ビジネスチャットによるステーション間の情報共有の促進
それ以外の工夫
・自主運営のサロンにて実施した。サロン運営の支えをしている地域コーディネーターに提案したところ実現した。サロンの世話人の方から要望があれば今後も続けていきたい。
・実際、地域で働く看護師が一番知りたいこと、不安に思っていることを題材にし、実際に動けるような結果を作り出すような研修企画をした。開催にあたり、その後に地域単位でグループワークをすることで、研修を受けた看護師が、現場で活かされるような工夫をした。
・地域の特性（人材確保・人材育成）と地域連携を研修の内容とした グループワークで参加者が感じている事の意見交換を行った
・押しつけにならないように。聴いた人それぞれが自分事で考えられるように。
・報告会を周知し、参加者確保に努めた。
・新任訪問看護師育成事業、第 1 回中央研修において、プロジェクトメンバーが講演した内容を各地区の協議会の理事が一部修正して開催する段取りになった。より多くの会員にプログラムの使用の呼びかけを行うことが出来た。
・訪問看護師の現場の声（スタッフインタビュー）や、新人教育の現状についても内容に盛り込む予定。
・エビデンスを慎重に調査することができた。決められた課題について、自分の伝えたいことではなく、受講者が何を期待して参加しているかを考えることができた。

⑭研修会の企画・開催しての課題（自由記載、一部抜粋）

Web 関連
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不慣れなハイブリッド形式での研修の為、グループワークが不十分だったグループもあったので皆に分かりやすい説明が必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は財源があったものの、以前のような集合研修や集合して行う定例会が実施できず。2ヶ月に1回程度、行っていた定例会をすぐに ZOOM に切り替えることもできなかった。今回、ZOOM でも 30 名程度の参加が見込めることが分かり、今後はオンラインを取り入れて企画していくしかないと考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web でのグループワークを取り入れたが、色々不備があった。多職種を対象としたが、職種による考え方の違いを共有できたが、満足感に差が生じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの企画の狙いが参加者に伝わらず、理解できないとの意見が一部あった。次回から企画をしっかりと考えたい。</li> <li>・初めてハイブリット方式での研修会を開催したが、音声やビデオの環境や参加者自身の操作不慣れが目立った。事前に説明資料の配布や当日の流れ・役割など共有できる形で臨むように改善していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web に慣れていない管理者の参加をどの様に集めるかが課題。準備時間の確保が困難。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web 研修は環境さえ整えば、コロナが落ち着いた後でも活用できる。 自分がホストになり研修の企画ができるようにしたい。</li> <li>・もっと同じような人材が増えるように啓蒙活動をしていきたい。</li> </ul>
その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムスケジュール通りいかなかったが、時間内に問題なく終わる事が出来た。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度からも同程度の研修を継続するべきかと考える。また、開催に際しての妥当な時間設定について。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時間を短縮してしまうと、質疑応答の時間が取れず受講生のニーズに答えられない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で考えた内容を実際に実行した場合、どのような結果がでるか、知っておく必要があると考える。連携システムを実際に動かすシミュレーションを実施し、足りない情報や必要な動きを探っていく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修時間が短いとの反応があった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保についての現状を伝えることと参加事業所の人材育成についての取り組み状況の意見交換は出来たが人材確保への取り組みまではディスカッションできなかった。又各事業所での人材育成については、参加者は満足していないと感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画概要が通ってからは県が研修実施主体となったため、講師との連携以外で準備に係わる機会がなかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全訪問看護事業所が組織として、暴力・ハラスメント対策の整備ができることが望ましい。訪問看護事業所としては 14 か所の参加であった。（富山県訪問看護ステーションの 2 割の参加）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画の広報の方法の工夫が必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーション管理者の関心が増えているがなかなか参加してもらえない。</li> </ul>

(令和2年度在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野)

「令和2年度訪問看護講師人材養成研修会」

受講後活動についてのアンケート ご協力をお願い

令和2年度受講者用

～看護師～

日頃より、訪問看護の推進につきまして格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日は、標記研修会にご参加頂きありがとうございました。

本研修会は、地域における訪問看護の講師人材の育成支援を趣旨としており、研修を修了された受講者を対象に研修プログラムの評価として、受講後の地域での活動に関する調査を実施いたします。ご多用中大変恐縮ですが、全ての受講者にご回答をいただきたく存じます。

別紙、調査票にご回答のうえ、当協会担当者宛にメールに添付にてご返信ください。

なお、本調査の結果については、厚生労働省の会議等に提示させていただき、都道府県、都道府県看護協会や都道府県訪問看護ステーション連絡協議会等が受講者の皆様のお力を活用いただく際の参考となるよう、公表を予定しています。また、講師等としての活動事例については、とりまとめるにあたって、個別にお問い合わせをさせていただき場合がありますことを申し添えます。

何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

◇ 締め切り：令和3年2月22日（月） ◇

令和3年2月8日

一般社団法人全国訪問看護事業協会

\*\*\*\*\*

- ・□をクリックすると、☒選択マークに変わります。訂正したい場合はもう一度クリックすると□に戻ります。
- ・複数回答いただく場合は、質問文に「複数回答可」と記載しています。

## I. 基本情報についてお伺いいたします。

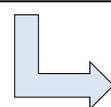
1) 都道府県名	
2) ご所属	
3) お名前	
4) 「訪問看護講師人材養成研修会」受講前の講師経験の有無	<input type="checkbox"/> 有り ・ <input type="checkbox"/> 無し
5) 推薦元(都道府県、訪問看護ステーション連絡協議会、看護協会等)への研修会受講報告はどのように行いましたか(複数選択可)	<input type="checkbox"/> 定例会議等で報告 <input type="checkbox"/> 伝達研修会の開催 <input type="checkbox"/> 報告書による報告 <input type="checkbox"/> <u>報告していない</u>  <u>報告していない理由:</u> 

## II. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講後の地域での活躍について

1. 訪問看護人材の確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催についてお伺いします。

1) 研修受講後、訪問看護人材確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等(技術研修・講演会など)の開催または計画をしたり、講師として活動しましたか。

開催した・活動した       計画した       開催しなかった・活動しなかった



3) へお進みください

2) 「開催した・活動した」方は①：研修会等を開催した回数・講師等として活動した回数をご記載ください。

「計画した」方は②：開催または講師としての活動に関する計画を立てた場合は、

にチェック☒を入れてください。

		開催(企画・運営)	講師
①開催した・活動した方	令和2年度実施	回	回
②計画した方	令和2年度以降の計画	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

⇒回答後、4) へお進みください







7) 地域の経験の浅い訪問看護ステーション等からの、訪問看護サービスやその他関係機関との調整等に関する相談への対応状況について伺います。

(1) 本研修会を受講する前に相談を受けたことがありますか

ある                       ない

(2) 本研修会受講後の相談件数の変化について

相談件数が増えた                       相談件数が減った  
 相談件数は変わらない

8) 本研修会の受講により、都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と連携や相談をしやすくなりましたか。

はい                       いいえ                       変わらない



「はい」と回答された方に伺います。

都道府県担当者や地域の訪問看護関係団体の方と、地域の訪問看護サービスの確保や人材育成の必要性、今後の講師活動に資する連携等について相談する機会がありましたか。

はい                       いいえ

9) 都道府県の職員と訪問看護に関して定期的な話し合いの場が持てるようになりましたか。

はい                       いいえ

10) 都道府県と共催による研修会等を定期的に行なうことができますか。

はい                       いいえ                       どちらともいえない

11) 訪問看護講師人材養成研修会で学んだことが、受講後の活動に役立ちましたか。もしくは、今後活動するうえで役立つと思いますか。5段階評価で該当する数字を選択してください。また、その理由を具体的にご記載ください。

とても役に立った |—————|—————|—————|—————| 全く役に立たなかった  
5                      4                      3                      2                      1

評価 【アイテムを選択してください】をクリックし、▼をクリックすると項目が出てきますのでひとつ選択してください。

番号【 アイテムを選択してください。 】

理由：

12) 地域の研修会等を企画・開催等をしていくためにどのような支援が必要かについて、**特に必要**  
**と思う内容を2つ**選択してください。

- 行政や関係機関（地区医師会、都道府県看護協会、教育機関等）等の協力関係
- 企画・運営するにあたっての相談先
- 所属法人・事業所等の理解
- 研修会の企画・立案に関するノウハウを演習等で学ぶ機会
- 研修会に活用可能な教材
- 講師人材同士のネットワーク
- 業務外で取り組むことについての経済的支援
- その他（）

**受講後に研修会等を開催された方、講師等で活動された方は、**  
**主な研修会について次ページからの**  
**【研修会の詳細】にご記載ください。**



⑦ 開催にあたり、あなたはどのような役割を担いましたか（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 企画・運営に関わった <input type="checkbox"/> 講師、シンポジスト等として関わった <input type="checkbox"/> その他（具体的に： _____）	
⑧ 対象者（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 訪問看護師等（ <input type="checkbox"/> 管理者 <input type="checkbox"/> スタッフ職員） <input type="checkbox"/> 病院の看護職員（ <input type="checkbox"/> 看護部長・師長・主任 <input type="checkbox"/> スタッフ職員） <input type="checkbox"/> 看護職以外の専門職（職種： _____） <input type="checkbox"/> 看護学生 <input type="checkbox"/> 看護師養成機関教職員 <input type="checkbox"/> 利用者・家族 <input type="checkbox"/> 地域住民・一般の人 <input type="checkbox"/> その他 （ _____ ）	
⑨ 参加者数（1つ選択）	<input type="checkbox"/> 1～20名 <input type="checkbox"/> 21～40名 <input type="checkbox"/> 41～60名 <input type="checkbox"/> 61～80名 <input type="checkbox"/> 81～100名 <input type="checkbox"/> 101名～150名 <input type="checkbox"/> 151名以上	
⑩ 開催方法	<input type="checkbox"/> 対面研修 <input type="checkbox"/> Web（オンライン）研修 <input type="checkbox"/> 対面とWebの混合研修	
⑪ 研修会開催の財源（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 1. 医療介護総合確保基金 <input type="checkbox"/> 2. 都道府県の事業費（事業名 _____） <input type="checkbox"/> 3. 市区町村の事業費（事業名 _____） <input type="checkbox"/> 4. 都道府県看護協会の事業費 <input type="checkbox"/> 5. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会の事業費 <input type="checkbox"/> 6. 大学等教育機関の費用 <input type="checkbox"/> 7. 研修会の受講料 <input type="checkbox"/> 8. その他（具体的に： _____） <input type="checkbox"/> 9. 分からない	
⑫ 研修会の開催を可能にした要因について（複数回答可）	要 因	具体的な内容（自由記載）
	<input type="checkbox"/> 行政・関係機関等の理解が得られた	
	<input type="checkbox"/> 経済的支援を受けることができた	
	<input type="checkbox"/> 本研修の過去の受講者が協力した	
<input type="checkbox"/> 訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた		

	<input type="checkbox"/> 訪問看護人材養成 研修会に参加した ことにより、所属 法人・事業所等の 理解を得ることが できた	
	<input type="checkbox"/> その他	
⑬ 研修会の企画・開催 において、どのよう な工夫をしましたか。	工夫した点（自由記載）	
⑭ 研修会の企画・開催 して、どのような課 題がありましたか。	課題があった点（自由記載）	

☆ 質問は以上です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました ☆

2月22日（月）までにメールにてご返送ください。